

(様式第10)

徳大院総第149号

令和4年10月4日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人徳島大学

学長 河村保彦

徳島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和3年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒770-8501 徳島県徳島市新蔵町2丁目24番地
氏名	国立大学法人徳島大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

徳島大学病院

3 所在の場所

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50番地の1
電話 (088)631-3111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科		2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	4腎臓内科	
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科	8代謝内科	
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			11リウマチ科	
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	病理診断科	3	リハビリテーション科	4	脳神経内科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41床	8床	0床	0床	643床	692床

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	259	185	392.6
歯科医師	82	83	135.2
薬剤師	49	0	49
保健師	0	0	0
助産師	37	2	38.8
看護師	683	39	715.7
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	10	5	14.5
管理栄養士	11	2	12.5

職種	員数
看護補助者	74
理学療法士	16
作業療法士	7
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	20
栄養士	0
歯科技工士	8
診療放射線技師	43

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	57
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	14
その他の技術員	53
事務職員	145
その他の職員	5

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	91	眼科専門医	11
外科専門医	37	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	10	放射線科専門医	11
小児科専門医	18	脳神経外科専門医	16
皮膚科専門医	5	整形外科専門医	17
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	14
産婦人科専門医	15	救急科専門医	5
		合計	270

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (香美 祥二) 任命年月日 平成 31 年 4 月 1 日

リスクマネジメント委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	516 人	11 人	527 人
1日当たり平均外来患者数	1,530 人	412 人	1,942 人
1日当たり平均調剤数	入院 477.7剤、外来 46.5剤		剤
必要医師数	141		人

必要歯科医師数	22	人
必要薬剤師数	18	人
必要(准)看護師数	328	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	225.5 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	11 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 495 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	28 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 63 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	72 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動分注装置、生化学分析装置		
細菌検査室	259 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養装置、細菌検査装置		
病理検査室	357 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動免疫染色装置、SL医用写真撮影装置		
病理解剖室	161 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、スケール付ストレッチャー		
研究室	257 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	マルチスライスCT、四肢用MRI、回診用X線装置		
講義室	982 m ²	鉄筋コンクリート	室数	28 室	収容定員	630 人
図書室	75 m ²	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	4,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	80.6	%	逆紹介率	58.9	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		16,493		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		12,412		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		476		人
	D: 初診の患者の数		21,053		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市民病院・病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	無	1
白川 剛	白川剛法律事務所・弁護士		法律に関する識見を有するため	無	1
上田 伊佐子	徳島文理大学保健福祉学部・教授		医療安全管理についての知識を有し、医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者(学識経験を有する者)	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
徳島大学、徳島大学病院のホームページにて公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要 該当なし	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	16	56	ベーチェット病	47
2	筋萎縮性側索硬化症	121	57	特発性拡張型心筋症	55
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	23
4	原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	53	60	再生不良性貧血	20
6	パーキンソン病	313	61	自己免疫性溶血性貧血	6
7	大脳皮質基底核変性症	30	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	27
9	神経有棘赤血球症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	12	65	原発性免疫不全症候群	11
11	重症筋無力症	141	66	IgA腎症	52
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	46
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	99	68	黄色靱帯骨化症	72
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	60	69	後縦靱帯骨化症	153
15	封入体筋炎	10	70	広範脊柱管狭窄症	16
16	クドウ・深瀬症候群	4	71	特発性大腿骨頭壊死症	51
17	多系統萎縮症	59	72	下垂体性ADH分泌異常症	18
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	89	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	8
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	10
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	61	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	26
23	プリオン病	10	78	下垂体前葉機能低下症	73
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	6	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	40	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	94
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	104
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	20
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	7
34	神経線維腫症	31	89	リンパ脈管筋腫症	3
35	天疱瘡	24	90	網膜色素変性症	23
36	表皮水疱症	2	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	16	92	特発性門脈圧亢進症	3
38	ステイヴンス・ジョンソン症候群	5	93	原発性胆汁性肝硬変	30
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	5
40	高安動脈炎	13	95	自己免疫性肝炎	13
41	巨細胞性動脈炎	4	96	クローン病	103
42	結節性多発動脈炎	6	97	潰瘍性大腸炎	188
43	顕微鏡的多発血管炎	23	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	18	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	15	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	11	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	7	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	230	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	112	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	91	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	43	107	若年性特発性関節炎	4
53	シェーグレン症候群	72	108	旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	0
54	成人スチル病	10	109	TNF受容体関連周期性症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	非典型型溶血性尿毒症症候群	1
				ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群	0
113	筋ジストロフィー	18	168	エーラス・ダンロス症候群	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	2
117	脊髄空洞症	2	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髄膜瘤	0	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	0	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	1	175	ウィーバー症候群	0
121	神経フェリチン症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー症候群	0	181	クルーゾン症候群	1
127	前頭側頭葉変性症	8	182	アペール症候群	0
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	1	185	コフィン・シリズ症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	2
137	限局性皮質異形成	2	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	196	ヤング・シン普森症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	2	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	1	202	スミス・マギニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	1	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスマッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	208	修正大血管転位症	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	209	完全大血管転位症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	2
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	0
158	結節性硬化症	1	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
160	先天性魚鱗癬	1	215	ファロー四徴症	4
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	2
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	22	217	エプスタイン病	1
163	特発性後天性全身性無汗症	8	218	アルポート症候群	0
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	0	220	急速進行性糸球体腎炎	14

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	軟骨無形成症	1
222	一次性ネフローゼ症候群	68	リンパ管腫症/ゴーンハム病	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
224	紫斑病性腎炎	6	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
225	先天性腎性尿崩症	0	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	7	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
227	オスラー病	6	先天性赤血球形成異常性貧血	0
228	閉塞性細気管支炎	0	後天性赤芽球癆	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
230	肺胞低換気症候群	1	ファンconi貧血	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	遺伝性鉄芽球性貧血	0
232	カーニー複合	0	エプスタイン症候群	0
233	ウォルフラム症候群	0	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	クローンカイト・カナダ症候群	2
235	副甲状腺機能低下症	0	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	総排泄腔外反症	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7	総排泄腔遺残	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	1	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	胆道閉鎖症	2
242	高チロシン血症2型	0	アラジール症候群	0
243	高チロシン血症3型	1	遺伝性膀胱炎	0
244	メーブルシロップ尿症	0	嚢胞性線維症	0
245	プロピオン酸血症	0	IgG4関連疾患	8
246	メチルマロン酸血症	1	黄斑ジストロフィー	0
247	イソ吉草酸血症	0	レーベル遺伝性視神経症	1
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	アッシャー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	若年発症型両側性感音難聴	0
250	グルタル酸血症2型	0	遅発性内リンパ水腫	1
251	尿素サイクル異常症	0	好酸球性副鼻腔炎	26
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	カナパン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	進行性白質脳症	0
254	ポルフィリン症	0	進行性ミオクローヌステんかん	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	先天異常症候群	0
256	筋型糖原病	0	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖原病	0	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	0	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	カルニチン回路異常症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	1	三頭酵素欠損症	0
263	脳腫黄色腫症	0	シトリン欠損症	0
264	無βリポタンパク血症	0	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
266	家族性地中海熱	4	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	0	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	10	大理石骨病	4
272	進行性骨化性線維異形成症	0	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	0	無虹彩症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
			331 特発性多中心性キャッスルマン病	4
			332 膠様滴状角膜炎ジストロフィー	0
			333 ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
			334 脳クレアチン欠乏症候群	0
			335 ネフロン癆	0
			336 家族性低βリポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
			337 ホモシステニン尿症	0
			338 進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	338
合計患者数(人)	3463人

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算2(ICU)
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1入院基本料)	・入退院支援加算(入院時支援加算、総合機能評価加算)
・特定機能病院入院基本料 精神病棟(10対1入院基本料)	・認知症ケア加算
・救急医療管理加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・排尿自立支援加算
・医師事務作業補助体制加算2(30対1)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・特定集中治療室管理料2(早期栄養介入管理加算)(早期離床・リハビリテーション加算)
・看護職員夜間配置加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1(早期栄養介入管理加算)(早期離床・リハビリテーション加算)
・療養環境加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料(早期栄養介入管理加算)
・重症者等療養環境特別加算	・総合周産期特定集中治療室管理料(母胎・胎児集中治療室管理、新生児集中治療室管理)
・無菌治療室管理加算1	・新生児治療回復室入院医療管理料
・無菌治療室管理加算2	・一類感染症患者入院医療管理料
・緩和ケア診療加算	・小児入院医療管理料2(プレイルーム加算)
・精神科身体合併症管理加算	・短期滞在手術等基本料1
・摂食障害入院医療管理加算	・短期滞在手術等基本料2
・栄養サポートチーム加算(歯科医師連携加算)	・入院時食事療養/生活療養(I)
・医療安全対策加算1(医療安全対策地域連携加算)	・精神科リエゾンチーム加算
・感染対策向上加算	・放射線治療病室管理加算
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・後発医薬品使用体制加算2	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・医療機器安全管理料2
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・医療機器安全管理料(歯科)
・糖尿病合併症管理料	・歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医療管理料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導管理料イ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料ロ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・がん患者指導管理料ハ	・遺伝学的検査
・がん患者指導管理料ニ	・有床義歯咀嚼機能検査1のイ
・外来緩和ケア管理料	・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・有床義歯咀嚼機能検査2のイ
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査
・糖尿病透析予防指導管理料(高度腎機能障害患者加算)	・精密触覚機能検査
・小児運動器疾患指導管理料	・睡眠時歯科筋電図検査
・婦人科特定疾患治療管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・腎代替療法指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・外来放射線照射診療料	・がんゲノムプロファイリング検査
・ニコチン依存症管理料	・先天性代謝異常症検査
・療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん治療連携計画策定料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来排尿自立指導料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・肝炎インターフェロン治療計画料	・検体検査管理加算(I)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・検体検査管理加算(IV)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・国際標準検査管理加算
・薬剤管理指導料	・遺伝カウンセリング加算
・医療機器安全管理料1	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・無菌製剤処理料
・胎児心エコー法	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・ヘッドアップティルト試験	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・人工臓器検査、人工臓器療法	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・がん患者リハビリテーション料
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・歯科口腔リハビリテーション料2
・脳波検査判断料1	・精神科作業療法
・単線維筋電図	・認知療法・認知行動療法1
・神経学的検査	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・補聴器適合検査	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・全視野精密網膜電図	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・ロービジョン検査判断料	・医療保護入院等診療料
・小児食物アレルギー負荷検査	・レーザー機器加算
・内服・点滴誘発試験	・硬膜外自家血注入
・CT透視下気管支鏡検査加算	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・経気管支凍結生検法	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・画像診断管理加算1	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・歯科画像診断管理加算1	・人工腎臓
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・CT撮影及びMRI撮影	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・冠動脈CT撮影加算	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・心臓MRI撮影加算	・手術用顕微鏡加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・外来化学療法加算1	・CAD/CAM冠

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・手術時歯根面レーザー応用加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・歯科技工加算1及び2	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・センチネルリンパ節加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
・椎間板内酵素注入療法	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下弁形成術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・経カテーテル大動脈弁置換術
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・胸腔鏡下弁置換術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・経皮的中隔心筋焼灼術
・網膜再建術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	
・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・補助人工心臓	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的下肢動脈形成術	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・胎児輸血術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・腹腔鏡下肝切除術	・輸血管理料 I
・生体部分肝移植術	・輸血適正使用加算
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術	・同種クリオプレシピテート作製術
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	・歯周組織再生誘導手術
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・麻酔管理料 (I)
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・麻酔管理料 (II)
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・歯科麻酔管理料
・同種死体腎移植術	・放射線治療専任加算
・生体腎移植術	・外来放射線治療加算
・膀胱水圧拡張術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・強度変調放射線治療 (IMRT)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・画像誘導放射線治療 (IGRT)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・体外照射呼吸性移動対策加算	・多血小板血漿処置
・定位放射線治療	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
・保険医療機関間の連携による病理診断	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・病理診断管理加算2	・緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・デジタル病理画像による病理診断	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・悪性腫瘍病理組織標本加算	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・口腔病理診断管理加算2	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・歯科矯正診断料	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)に限る。)
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術
・外来栄養食事指導料(注2)	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・外来栄養食事指導料(注3)	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・一般不妊治療管理料	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・生殖補助医療管理料1	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・下肢創傷処置管理料	・精巣内精子採取術
・外来腫瘍化学療法診療料1	・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術
・連携充実加算(外来腫瘍化学療法診療料)	・体外式膜型人工肺管理料
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算
・染色体検査の注2に規定する施設基準	
・口腔細菌定量検査	
・経頭蓋磁気刺激療法	
・療養生活継続支援加算(通院・在宅精神療法)	
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Byambasuren Ganbaatar, Daiju Fukuda, Masakazu Shinohara, 他	循環器内科	Inhibition of SIP Receptor 2 Attenuates Endothelial Dysfunction and Inhibits Atherogenesis in Apolipoprotein E-Deficient Mice	J Atheroscler Thromb. 2021 Jun 1; 28(6):630-642	Letter
2	Yuta Torii, Kenya Kusunose, Yukina Hirata, 他	循環器内科	Left Atrial Strain Associated with Functional Recovery in Patients Receiving Optimal Treatment for Heart Failure	J Am Soc Echocardiogr. 2021 Apr 20;S0894- 7317(21)00187-5	Original Article
3	Kenya Kusunose	循環器内科	Is global longitudinal strain a gold standard parameter in all cardiovascular diseases?	Heart. 2021May;107(10):776-777	Letter
4	Toshiyasu Ogata, Hirofumi Shimada, Tooru Inoue, 他	循環器内科	Quantification of Carotid Plaque Histology Using iPlaque Software	Ultrasound Med Biol. 2021 Apr;47(4):928- 931	Review
5	Kumiko Suto, Daiju Fukuda, Masakazu Shinohara, 他	循環器内科	Remanoracet, A Novel Selective Peroxisome Proliferator-Activated Receptor α Modulator, Reduces Plasma Eicosanoid Levels and Ameliorates Endothelial Dysfunction in Diabetic Mice	J Atheroscler Thromb. 2021 Dec 1;28(12):1349-1360	Original Article
6	Shusuke Yagi, Tomoko Takahashi, Keiji Murakami, 他	循環器内科	Infective Endocarditis from Furuncle with Meningitis Complication Caused by Methicillin-resistant Staphylococcus aureus	Intern Med. 2021 Oct 15;60(20):3251-3255	Original Article
7	Yuichiro Okushi, Kenya Kusunose, Yoshihiro Okayama, 他	循環器内科	Acute Hospital Mortality of Venous Thromboembolism in Patients With Cancer From Registry Data.	J Am Heart Assoc. 2021 Jun;10(11):e019373	Review
8	Kenya Kusunose, Miharu Arase, Robert Zheng, 他	循環器内科	Clinical Utility of Overlap Time for Incomplete Relaxation to Predict Cardiac Events in Heart Failure: Incomplete relaxation in heart failure	J Card Fail. 2021 Nov;27(11):1222-1230	Review
9	Kazuhisa Matsumoto, Takeshi Tobiume, Tomomi Matsuura, 他	循環器内科	Evaluation of the input site and characteristics of the antegrade fast pathway based on three-dimensional bi-atrial stimulus-ventricle mapping	J Interv Card Electrophysiol. 2022 Mar;63(2):417-424.	Review
10	Daiju Fukuda, Phuong Tran Pham, Masataka Sata	循環器内科	Emerging Roles of the Innate Immune System Regulated by DNA Sensors in the Development of Vascular and Metabolic Diseases	J Atheroscler Thromb. 2022 Mar 1;29(3):297-307	Review
11	Kenya Kusunose, Robert Zheng, Hirotosugu Yamada, 他	循環器内科	How to standardize the measurement of left ventricular ejection fraction	J Med Ultrason (2001). 2022 Jan;49(1):35-43	Original Article
12	Tomomi Matsuura, Takeshi Soeki, Daiju Fukuda, 他	循環器内科	Activated Factor X Signaling Pathway via Protease-Activated Receptor 2 Is a Novel Therapeutic Target for Preventing Atrial Fibrillation	Circ J. 2021 Jul 21;85(8):1383-1391	Review
13	Kusunose K	循環器内科	Reply to Higaki-Next Steps in Artificial Intelligence for Cardiovascular Hemodynamics	Can J Cardiol. 2021 Aug;37(8):1299	Letter
14	Yuta Torii, Kenya Kusunose, Yukina Hirata, 他	循環器内科	Left Atrial Strain Associated with Functional Recovery in Patients Receiving Optimal Treatment for Heart Failure	J Am Soc Echocardiogr. 2021 Sep;34(9): 966-975.e2	Review
15	Kenya Kusunose, Takumi Imai, Atsushi Tanaka, 他	循環器内科	Effects of canagliflozin on NT- proBNP stratified by left ventricular diastolic function in patients with type 2 diabetes and chronic heart failure: a sub analysis of the CANDLE trial	Cardiovasc Diabetol. 2021 Sep 14;20(1):186	Original Article

16	Kenya Kusunose, Hironori Takahashi, Susumu Nishio, 他	循環器内科	Predictive value of left atrial function for latent paroxysmal atrial fibrillation as the cause of embolic stroke of undetermined source	J Cardiol. 2021 Nov;78(5):355-361	Review
17	Phuong Tran Pham, Daiju Fukuda, Sachiko Nishimoto, 他	循環器内科	STING, a cytosolic DNA sensor, plays a critical role in atherogenesis: a link between innate immunity and chronic inflammation caused by lifestyle-related diseases	Eur Heart J. 2021 Nov 7;42(42):4336-4348	Review
18	Yuichiro Okushi, Kenya Kusunose, Michikazu Nakai, 他	循環器内科	Comparison of Direct Oral Anticoagulants for Acute Hospital Mortality in Venous Thromboembolism	Am J Cardiovasc Drugs. 2021 Dec 20	Review
19	Kenya Kusunose, Hisako Yoshida, Atsushi Tanaka, 他	循環器内科	Effect of febuxostat on left ventricular diastolic function in patients with asymptomatic hyperuricemia: a sub analysis of the PRIZE Study	Hypertens Res. 2022 Jan;45(1):106-115.	Review
20	Robert Zheng, Kenya Kusunose, Yuichiro Okushi, 他	循環器内科	Impact of cancer on short-term in-hospital mortality after primary acute myocardial infarction	Open Heart.2021 Nov;8(2):e00186	Original Article
21	Kenya Kusunose, Hirotosugu Yamada, Yoshihito Saijo, 他	循環器内科	Preload Stress Echocardiography for the Assessment of Heart Failure With Preserved Ejection Fraction	JACC Cardiovasc Imaging. 2022 Feb;15(2):375-378	Letter
22	Shusuke Yagi, Daiju Fukuda, Takayuki Ise, 他	循環器内科	Clinical clerkship students' preferences and satisfaction regarding online lectures during the COVID-19 pandemic	BMC Med Educ. 2022 Jan 18;22(1):43	Original Article
23	Keiko Haji, Seidai Sato, Hiroto Yoneda, 他	呼吸器・膠原病内科	Multidisciplinary treatment of skeletal muscle metastasis from lung cancer: A case of triceps muscle metastasis of lung squamous cell cancer.	Respir Med Case Rep. 2021 Jul(オンライン) 8;33:101470	Case report
24	Seidai Sato, Sy Giin Chong, Chandak Upagupta, 他	呼吸器・膠原病内科	Fibrotic extracellular matrix induces release of extracellular vesicles with pro-fibrotic miRNA from fibrocytes.	Thorax. 2021 Sep ; 76(9):895-906.	Original Article
25	Yasuhiko Nishioka, Sakae Homma, Takahito Okubo, 他	呼吸器・膠原病内科	Design of phase 2 study of TAS-115, a novel oral multi-kinase inhibitor, in patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Contemp Clin Trials Commun. 2021 Sep(オンライン) ; 23 : 100832	Original Article
26	Hiroto Yoneda, Hiroshi Nokihara, Atsushi Mitsuhashi, 他	呼吸器・膠原病内科	Correlation between immune-related adverse events and therapeutic effects of nivolumab in patients with malignant pleural mesothelioma.	BMC Pulm Med. 2021 Nov(オンライン) ; 21(1) : 373	Original Article
27	Atsushi Mitsuhashi, Kensuke Kondoh, Kazuki Horikawa, 他	呼吸器・膠原病内科	Programmed death (PD)-1/PD-ligand 1 blockade mediates antiangiogenic effects by tumor-derived CXCL10/11 as a potential predictive biomarker	Cancer Sci. 2021 Dec ; 112(12) : 4853-66	Original Article
28	Masahiro Sako, Hiroshi Nokihara, Kensuke Kondo, 他	呼吸器・膠原病内科	A case of pulmonary pleomorphic carcinoma with preexisting interstitial pneumonia successfully treated with pembrolizumab.	Thorac Cancer. 2022 Jan ; 13(1) : 129-132	Case report
29	Hirokazu Ogino, Jennie W Taylor, Takahide Nejo, 他	呼吸器・膠原病内科	Randomized trial of neoadjuvant vaccination with tumor-cell lysate induces T-cell response in low-grade gliomas.	J Clin Invest. 2022 Feb(オンライン) ; 132(3) : e151239	Original Article
30	Jinsei Miyoshi, Zhongxu Zhu, Aiping Luo, 他	消化器内科	A microRNA-based liquid biopsy signature for the early detection of esophageal squamous cell carcinoma: a retrospective, prospective and multicenter study.	Mol Cancer. 2022 Feb;21(1):44	Original Article
31	Tanaka K, Sato Y, Ishikawa H, Muguruma N, 他	消化器内科	Small Intestinal Involvement and Genotype-Phenotype Correlation in Familial Adenomatous Polyposis.	Techniques and Innovations in Gastrointestinal Endoscopy. 2022; 24(1): 26-34	Original Article
32	Akihiro Hirao, Yasushi Sato, Hironori Tanaka, 他	消化器内科	MiR-125b-5p is Involved in Sorafenib Resistance through Ataxin-1-Mediated Epithelial-Mesenchymal Transition in Hepatocellular Carcinoma.	Cancers (Basel). 2021 Sep;13(19):4917	Original Article
33	Tetsu Tomonari, Yasushi Sato, Hironori Tanaka, 他	消化器内科	Therapeutic efficacy of lenvatinib in nonviral unresectable hepatocellular carcinoma.	JGH Open. 2021 Oct;5(11):1275-1283	Original Article

34	Shinji Kitamura, Naoki Muguruma, Koichi Okamoto, 他	消化器内科	Clinicopathological characteristics of early gastric cancer associated with autoimmune gastritis.	JGH Open. 2021 Sep;5(10):1210-1215.	Original Article
35	Masahiro Sogabe, Toshiya Okahisa, Takeshi Kurihara, 他	消化器内科	Differences in Several Factors in the Development of Erosive Esophagitis Among Patients at Various Stages of Metabolic Syndrome: A Cross-Sectional Study.	Diabetes Metab Syndr Obes. 2021 Apr;14:1589-1600	Original Article
36	Yasuyuki Okada, Naoki Takahashi, Tetsuji Takayama, 他	消化器内科	LAMC2 promotes cancer progression and gemcitabine resistance through modulation of EMT and ATP-binding cassette transporters in pancreatic ductal adenocarcinoma.	Carcinogenesis. 2021 Apr;42(4):546-556	Original Article
37	Yasushi Sato, Koichi Okamoto, Hiroshi Miyamoto, 他	消化器内科	Chemotherapy in older adults with gastrointestinal cancer: Current practice and future directions in Japan.	J Med Invest. 2022 Feb;69(1.2):25-30.	Review
38	Masahiro Sogabe, Yumiko Izaki, Toshiya Okahisa, 他	消化器内科	Improvement of acceptability in patients undergoing esophagogastroduodenoscopy using auditory and visual stimulation.	J Med Invest. 2022 Feb;69(1.2):8-18	Review
39	Kaizo Kagemoto, Yoji Takeuchi, Koichi Okamoto	消化器内科	Modified underwater endoscopic mucosal resection for a laterally spreading tumor: "Underwater" snaring and "undergas" resection.	Dig Endosc. 2022 Mar;34(3):e32-e33.	Case report
40	Masanori Takehara, Hiroshi Miyamoto, Yasuteru Fujino, 他	消化器内科	Long-Term Survival due to Chemotherapy including Paclitaxel in a Patient with Metastatic Primary Splenic Angiosarcoma.	Case Rep Gastroenterol. 2021 Oct;15(3):910-918	Case report
41	Naoki Muguruma, Tetsuji Takayama	消化器内科	Artificial Intelligence-Based Colorectal Polyp Histology Prediction: High Accuracy in Larger Polyps.	Clin Endosc. 2022 Jan;55(1):45-46	Others
42	Tomoyo Hara, Ryoko Uemoto, Akiko Sekine, 他	内分泌・代謝内科	Plasma heparin cofactor II activity is inversely associated with albuminuria and its annual deterioration in patients with diabetes.	J Diabetes Investig. 2021 Dec;12(12):2172-2182.	Original Article
43	Kotaro Tanimoto, Masahiro Hiasa, Hirofumi Tenshin, 他	血液内科	Mechanical unloading aggravates bone destruction and tumor expansion in myeloma.	Haematologica. 2022 Mar 107(3): 744-749.	Letter
44	Shimizu S, Teramachi J, Harada T, 他	血液内科	Aberrant upregulation of the endogenous PP2A inhibitor CIP2A is vital for myeloma cell growth and survival.	International Journal of Myeloma. 2022;12(2):14-23.	Original Article
45	Hirokazu Miki, Shingen Nakamura, Masahiro Oura, 他	血液内科	The importance of retaining physical functions to prevent skeletal-related events in multiple myeloma patients with bone disease.	eJHaem. 2022 Feb 28;3(2):480-483	Letter
46	Masahiro Hiasa, Takeshi Harada, Eiji Tanaka, 他	血液内科	Pathogenesis and treatment of multiple myeloma bone disease.	Jpn Dent Sci Rev. 2021 Nov ;57:164-173.	Review
47	Takeshi Harada, Masahiro Hiasa, Jumpei Teramachi, 他	血液内科	Myeloma-bone interaction: a vicious cycle via TAK1-PIM2 signaling.	Cancers. 2021 Sep ;13(17):4441.	Review
48	Mamiko Takahashi, Ryohei Sumitani, Taiki Hori, 他	血液内科	Intravenous busulfan-based conditioning with autologous stem cell transplantation for refractory B-cell lymphoma with central nervous system involvement.	J Med Invest. 2021; 68(1.2): 196-201.	Case report
49	Jumpei Teramachi, Hirofumi Tenshin, Masahiro Hiasa, 他	血液内科	TAK1 is a pivotal therapeutic target for tumor progression and bone destruction in myeloma.	Haematologica. 2021 May ;106(5):1401-1413.	Original Article
50	Keiichiro Watanabe, Ariunzaya Bat-Erdene, Hirofumi Tenshin, 他	血液内科	Reveromycin A, a novel acid-seeking agent, ameliorates bone destruction and tumor growth in multiple myeloma.	Haematologica. 2021 Apr ;106(4):1172-1177.	Letter
51	Ryohei Sumitani, Taiki Hori, Jumpei Murai, 他	血液内科	Acute Myeloid Leukemia Developing with Acute Pancreatitis Mimicking Autoimmune Pancreatitis.	Intern Med. 2021 Jun 1;60(11):1753-1757.	Case report

52	Yuichi Takashi, Shun Sawatsubashi, Itsuro Endo, 他	血液内科	Skeletal FGFR1 signaling is necessary for regulation of serum phosphate level by FGF23 and normal life span.	Biochem Biophys Rep. 2021 Aug 17;27:101107.	Letter
53	Yusuke Kaneko, Motoki Sugasaki, Naoto Okada, 他	血液内科	Artifactual prolongation of the activated partial thromboplastin time by amikacin or gentamicin with ellagic acid, but not silica activated reagent.	Int J Lab Hematol. 2021 Sep 29.e72-e75.	Letter
54	Kohei Muto, Ryosuke Miyamoto, Yuka Terasawa, 他	脳神経内科	A novel COL4A1 variant associated with recurrent epistaxis and glioblastoma	Hum Genome Var. 2021 May 14; 8(1): 18	Original Article
55	Yusuke Osaki, Hiroyuki Nodera, Tatsuya Fukumoto, 他	脳神経内科	Peripheral nerve dysfunction in a patient with thyrotoxic periodic paralysis: Evidence from an axonal prolonged exercise test	Clinical Neurophysiology, 132(7), July 2021, 1496-1498	Original Article
56	Yusuke Osaki, Wataru Sako, Masafumi Harada, 他	脳神経内科	Magnetic resonance tractography exhibiting retrograde degeneration of the corticospinal tract in a patient with a unilateral spinal cord tumor	Brain Behav. 2021 Apr;11(4): e02020.	Original Article
57	Shotaro Haji, Wataru Sako, Nagahisa Murakami, 他	脳神経内科	The value of serum uric acid as a prognostic biomarker in amyotrophic lateral sclerosis: Evidence from a meta-analysis	Clin Neurol Neurosurg. 2021 Apr;203:106566	Original Article
58	Yohei Yamamoto, Naoko Matsui, Akiyuki Uzawa, 他	脳神経内科	Intrathymic Plasmablasts Are Affected in Patients With Myasthenia Gravis With Active Disease	Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm. 2021 Sep 24; 8(6): e1087	Original Article
59	Seiya Inoue, Takahiro Yoshida, Takeshi Nishino, 他	食道・乳腺甲状腺外科	Biomarkers predicting the response to chemotherapy and the prognosis in patients with esophageal squamous cell carcinoma	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Mar;69(3):525-533	Original Article
60	Takeshi Nishino, Hiroaki Toba, Takahiro Yoshida, 他	食道・乳腺甲状腺外科	Endobronchial Ultrasound Improves the Diagnosis of the Tracheobronchial Invasion of Advanced Esophageal Cancer	Ann Surg Oncol. 2021 Oct;28(11):6398-6406	Original Article
61	Masakazu Goto, Yukiko Shibahara, Cristina Baciu, 他	食道・乳腺甲状腺外科	Prognostic Impact of CXCR7 and CXCL12 Expression in Patients with Esophageal Adenocarcinoma	Ann Surg Oncol. 2021 Sep;28(9):4943-4951	Original Article
62	Mitsuteru Yoshida, Masao Yuasa, Kazuya Kondo, 他	呼吸器外科	Evaluation of extended thymectomy approaches based on residual fat tissue	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2021 Jan 22;32(2):250-255	Original Article
63	Mitsuteru Yoshida, Masao Yuasa, Hirohisa Ogawa, 他	呼吸器外科	Can computed tomography differentiate adenocarcinoma in situ from minimally invasive adenocarcinoma?	Thorac Cancer. 2021 Apr;12(7):1023-1032	Original Article
64	Yukikiyo Kawakami, Kazuya Kondo, Naoya Kawakita, 他	呼吸器外科	Long-term outcomes of sentinel node identification using indocyanine green in patients with lung cancer	Thorac Cancer. 2021 Jan;12(2):165-171	Original Article
65	Hiroaki Toba, Naoya Kawakita, Mika Takashima, 他	呼吸器外科	Diagnosis of recurrence and follow-up using FDG-PET/CT for postoperative non-small-cell lung cancer patients	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Feb;69(2):311-317	Original Article
66	Naoya Kawakita, Hiromitsu Takizawa, Hiroaki Toba, 他	呼吸器外科	Cone-beam computed tomography versus computed tomography-guided ultrathin bronchoscopic diagnosis for peripheral pulmonary lesions: A propensity score-matched analysis	Respirology. 2021 May;26(5):477-484.	Original Article
67	Shiho Soejima, Kazuya Kondo, Mitsuhiro Tsuboi, 他	呼吸器外科	GAD1 expression and its methylation as indicators of malignant behavior in thymic epithelial tumors	Oncol Lett. 2021 Jun;21(6):483	Original Article
68	Toru Sawada, Hiromitsu Takizawa, Mariko Aoyama, 他	呼吸器外科	Diagnosis of visceral pleural invasion using confocal laser endomicroscopy during lung cancer surgery	J Thorac Dis. 2021 Aug;13(8):4742-4752	Original Article
69	Yukikiyo Kawakami, Hiromitsu Takizawa, Hiroaki Toba, 他	呼吸器外科	Diversity of lymphatic flow in patients with lung cancer revealed by computed tomography lymphography	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2021 Nov 22;33(6):871-878	Original Article

70	Hiromitsu Takizawa, Naoki Miyamoto, Shinichi Sakamoto, 他	呼吸器外科	Hypervascularized bronchial arteries as a risk factor for intraoperative bleeding and prolonged surgery	J Thorac Dis. 2021 Aug;13(8):4731-4741	Original Article
71	Naoki Miyamoto, Mitsuteru Yoshida, Mika Takashima, 他	呼吸器外科	Classifying the destination of right top pulmonary vein in 31 clinical cases	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2021 Aug;69(8):1192-1195	Original Article
72	Naoki Miyamoto, Seiya Inoue, Takeshi Nishino, 他	呼吸器外科	A case of Vagus Nerve Schwannoma Difficult to Distinguish from Lymph Nodal Metastasis of Esophageal Cancer	J Med Invest. 2021;68(1.2):205-208	Case report
73	Shinichi Sakamoto, Hiromitsu Takizawa, Naoya Kawakita, 他	呼吸器外科	Lobectomy for lung cancer with a displaced left B(1 + 2) and an anomalous pulmonary vein: a case report	J Cardiothorac Surg. 2021 Jan 21;16(1):15	Case report
74	Mitsuteru Yoshida, Kazuya Kondo, Naoki Miyamoto, 他	呼吸器外科	Calcification in thymomas can predict invasiveness to surrounding organs	Thorac Cancer. 2021 Jun;12(12):1857-1863	Case report
75	Yutaro Sasaki, Masayuki Takahashi, Keisuke Ozaki, 他	泌尿器科	Efficacy of the direct grasping technique using pean forceps under fluoroscopy to replace ureteral stents in women	J Med Invest. 2021;68(3.4):326-329	Original Article
76	Takuya Yoshioka, Kei Daizumoto, Kouki Tada, 他	泌尿器科	Retroperitoneal hemorrhage in a patient with coronavirus disease 2019 (COVID-19): A case report	J Med Invest. 2022 Feb;69(1.2):148-151.	Case report
77	Katsuki Miyazaki, Yuji Morine, Satoru Imura, 他	消化器・移植外科	Preoperative lymphocyte/C-reactive protein ratio and its correlation with CD8 + tumor-infiltrating lymphocytes as a predictor of prognosis after resection of intrahepatic cholangiocarcinoma	Surg Today. 2021 Dec;51(12):1985-1995.	Original Article
78	Satoru Imura, Shinichiro Yamada, Yu Saito, 他	消化器・移植外科	Utility of cone unit liver resection for small hepatocellular carcinoma: a propensity score matched analysis	HPB (Oxford). 2021 May;23(5):739-745.	Original Article
79	Shuhai Chen, Yuji Morine, Kazunori Tokuda, 他	消化器・移植外科	Cancer-associated fibroblast-induced M2-polarized macrophages promote hepatocellular carcinoma progression via the plasminogen activator inhibitor-1 pathway	Int J Oncol. 2021 Aug;59(2):59.	Original Article
80	Shuhai Chen, Tetsuya Ikemoto, Takuya Tokunaga, 他	消化器・移植外科	Effective in vitro differentiation of adipose-derived stem cells into Schwann-like cells with folic acid supplementation	J Med Invest. 2021; August 68(3.4):347-353.	Original Article
81	Yuma Wada, Mitsuo Shimada, Tatsuro Murano, 他	消化器・移植外科	A Liquid Biopsy Assay for Noninvasive Identification of Lymph Node Metastases in T1 Colorectal Cancer	Gastroenterology. 2021 Jul;161(1):151-162.	Original Article
82	Luping Gao, Yuji Morine, Shinichiro Yamada, 他	消化器・移植外科	The BAFF/NF κ B axis is crucial to interactions between sorafenib-resistant HCC cells and cancer-associated fibroblasts	Cancer Sci. 2021 Sep;112(9):3545-3554.	Original Article
83	Luping Gao, Yuji Morine, Shinichiro Yamada, 他	消化器・移植外科	Nrf2 signaling promotes cancer stemness, migration, and expression of ABC transporter genes in sorafenib-resistant hepatocellular carcinoma cells	PLoS One. 2021 Sep 2;16(9):e0256755.	Original Article
84	Kazunori Tokuda, Yuji Morine, Katsuki Miyazaki, 他	消化器・移植外科	Frailty Can Predict Prognosis After Hepatectomy in Patients With Colorectal Liver Metastasis	Anticancer Res. 2021 Sep;41(9):4637-4644.	Original Article
85	Katsuki Miyazaki, Yuji Morine, Shinichiro Yamada, 他	消化器・移植外科	Stromal tumor-infiltrating lymphocytes level as a prognostic factor for resected intrahepatic cholangiocarcinoma and its prediction by apparent diffusion coefficient	Int J Clin Oncol. 2021 Dec;26(12):2265-2274.	Original Article
86	Yusuke Arakawa, Katsuki Miyazaki, Masato Yoshikawa, 他	消化器・移植外科	Value of the CRP-albumin ratio in patients with resectable pancreatic cancer	J Med Invest. 2021; August 68(3.4):342-346.	Original Article
87	Yu Saito, Satoru Imura, Yuji Morine, 他	消化器・移植外科	Regeneration of caudate lobe after living donor liver transplantation : Comparison with a surrogate model of left lobe graft	J Med Invest. 2021; August 68(3.4):330-333.	Original Article

88	Yuma Wada, Mitsuo Shimada, Yuji Morine, 他	消化器・移植外科	Circulating miRNA Signature Predicts Response to Preoperative Chemoradiotherapy in Locally Advanced Rectal Cancer	JCO Precis Oncol. 2021 Dec 2:1788-1801.	Original Article
89	Jun Higashijima, Takuya Tokunaga, Toshiaki Yoshimoto, 他	消化器・移植外科	A multicenter phase II trial of preoperative chemoradiotherapy with S-1 plus oxaliplatin and bevacizumab for locally advanced rectal cancer	Int J Clin Oncol. 2021 May;26(5):875-882.	Original Article
90	Shoko Yamashita, Yuji Morine, Satoru Imura, 他	消化器・移植外科	A new pathological classification of intrahepatic cholangiocarcinoma according to protein expression of SSTR2 and Bcl2	World J Surg Oncol. 2021 May 7;19(1):142.	Original Article
91	Toshiaki Yoshimoto, Kozo Yoshikawa, Takuya Tokunaga, 他	消化器・移植外科	Robotic-assisted total gastrectomy in a patient with gastric cancer associated with situs inversus totalis: With video	Asian J Endosc Surg. 2021 Apr;14(2):297-300.	Case report
92	Jun Higashijima, Toru Kono, Mitsuo Shimada, 他	消化器・移植外科	Intestinal hypoperfusion in patients with Crohn's disease revealed by intraoperative indocyanine green fluorescence imaging	Ann Med Surg (Lond). 2021 May 24;66:102402.	Original Article
93	Masaaki Nishi, Ryoosuke Miyamoto, Kasane Shima, 他	消化器・移植外科	Robot-assisted total gastrectomy for gastric cancer in a patient with amyotrophic lateral sclerosis receiving long-term tracheostomy invasive ventilation	International Cancer Conference Journal . 2021 July 12;10(4):318-323.	Case report
94	Masaaki Nishi, Mitsuo Shimada, Takuya Tokunaga, 他	消化器・移植外科	Lymphocyte to C-reactive protein ratio predicts long-term outcomes for patients with lower rectal cancer	World Journal of Surgical Oncology. 2021 Jul 6;19(1):201.	Original Article
95	Masaaki Nishi, Mitsuo Shimada, Kozo Yoshikawa, 他	消化器・移植外科	Impact of CKLF-like MARVEL transmembrane domaincontaining 6 (CMTM6) expression in gastric cancer	J Med Invest. 2021; August 68(3.4):362-367.	Original Article
96	Takuya Tokunaga, Hideya Kashihara, Jun Higashijima, 他	消化器・移植外科	A Transabdominal Robotic Purse-String Suture Technique for Transanal Total Mesorectal Excision	J Laparoendosc Adv Surg Tech A. 2021 Aug;31(8):937-941.	Original Article
97	Hideya Kashihara, Mitsuo Shimada, Kozo Yoshikawa, 他	消化器・移植外科	The influence and countermeasure of obesity in laparoscopic colorectal resection	Ann Gastroenterol Surg. 2021 May 13;5(5):677-682.	Original Article
98	Chie Takasu, Katsuki Miyazaki, Kozo Yoshikawa, 他	消化器・移植外科	Effect of TU-100 on Peyer's patches in a bacterial translocation rat model	Ann Gastroenterol Surg. 2021 Apr 5;5(5):683-691.	Original Article
99	Shohei Eto, Kozo Yoshikawa, Yukako Takehara, 他	消化器・移植外科	Usefulness of a multidisciplinary surgical site infection team in colorectal surgery	The Journal of Medical Investigation. 2021 August 68(3-4):256-259	Original Article
100	Kozo Yoshikawa, Mitsuo Shimada, Jun Higashijima, 他	消化器・移植外科	Usefulness of Diagnostic Staging Laparoscopy for Advanced Gastric Cancer	Am Surg. 2021 Aug 12;31348211038554. (オンライン)	Original Article
101	Shohei Okikawa, Jun Higashijima, Masaaki Nishi, 他	消化器・移植外科	SDF-1 expression after preoperative chemoradiotherapy is associated with prognosis in patients with advanced lowerrectal cancer	J Med Invest. 2021; August 68(3.4):309-314.	Original Article
102	Chie Takasu, Shoko Yamashita, Yuji Morine, 他	消化器・移植外科	The role of the immunoescape in colorectal cancer liver metastasi	PLoS One. 2021 Nov 19;16(11):e0259940.	Original Article
103	Jun Higashijima, Toru Kono, Mitsuo Shimada, 他	消化器・移植外科	High Ligation of the Inferior Mesenteric Artery Induces Hypoperfusion of the Sigmoid Colon Stump During Anterior Resection	Frontiers in Surgery. 2021 Dec 13 Volume 8:756873.	Original Article
104	Yuma Wada, Mitsuo Shimada, Yuji Morine, 他	消化器・移植外科	A transcriptomic signature that predicts cancer recurrence after hepatectomy in patients with colorectal liver metastases	Eur J Cancer. 2022 Mar 13;163:66-76.	Original Article
105	Shuhai Chen, Masaaki Nishi, Yuji Morine, 他	消化器・移植外科	Epigallocatechin-3-gallate hinders metabolic coupling to suppress colorectal cancer malignancy through targeting aerobic glycolysis in cancer-associated fibroblasts	Int J Oncol. 2022 Feb;60(2):19.	Original Article

106	Mami Takimoto, Sonoko Yasui-Yamada, Nanami Nasu, 他	消化器・移植外科	Development and Validation of Cutoff Value for Reduced Muscle Mass for GLIM Criteria in Patients with Gastrointestinal and Hepatobiliary-Pancreatic Cancers.	Nutrients. 2022 Feb 23;14(5):943.	Original Article
107	Masaaki Nishi, Mitsuo Shimada, Koza Yoshikawa, 他	消化器・移植外科	Usefulness of a stepwise training program for laparoscopic gastrectomy	Asian J Endosc Surg. 2022 Jan;15(1):121-127.	Original Article
108	Shohei Eto, Koza Yoshikawa, Toshiaki Yoshimoto, 他	消化器・移植外科	Strategy for laparoscopic repair of inguinal hernia after robot-assisted radical prostatectomy	Asian J Endosc Surg. 2022 Jan;15(1):155-161.	Original Article
109	Toshihiro Nakao, Mitsuo Shimada, Koza Yoshikawa, 他	消化器・移植外科	The correlation of immunoscore and frailty in colorectal cancer	Int J Clin Oncol. 2022 Mar;27(3):528-537.	Original Article
110	Shoko Yamashita, Masaaki Nishi, Tetsuya Ikemoto, 他	消化器・移植外科	Clinical analysis of postoperative venous thromboembolism in Japanese patients after colorectal cancer surgery	Surgery Today 2021 Jun;51(6):1022-1027.	Original Article
111	Hiroki Mori, Kazunori Masahata, Satoshi Umeda, 他	消化器・移植外科(小児外科)	Risk of carcinogenesis in the biliary epithelium of children with congenital biliary dilatation through epigenetic and genetic regulation	Surg Today. 2022 Feb;52(2):215-223.	Original Article
112	Noriko Yokota, Hiroki Ishibashi, Kenichi Suga, 他	消化器・移植外科(小児外科)	A case of Gross E esophageal atresia discovered following a unique clinical course	J Med Invest. 2022 Feb;69(1.2):141-144.	Case report
113	Yoshinori Mitamura, Tserennadmid Enkhmaa, Hiroki Sano, 他	眼科	Changes in choroidal structure following intravitreal aflibercept therapy for retinal vein occlusion	Br J Ophthalmol 2021 May;105(5):704-710.	Original Article
114	Kayo Shinomiya, Takashi Fujikado, Akiko Kitora, 他	眼科	Depth Perception with a Newly Developed Microscope Stereotest	Clin Ophthalmol 2021 Sep 22;15:3901-3908	Original Article
115	Mika Takahashi, Go Sato, Naoki Toda, 他	耳鼻咽喉科	Vestibular and cochlear nerve enhancement on MRI and its correlation with vestibulocochlear functional deficits in patients with Ramsay Hunt syndrome	Auris Nasus Larynx 2021 Jun; 48(3): 347-352.	Original Article
116	Toshihito Aoki, Takaaki Takeyama, Yuki Sakamoto, 他	耳鼻咽喉科	Effects of vocal nodules on acoustic characteristics of voice in children: an acoustic analysis of voice	J Med Invest. 2021 Aug; 68(3.4): 276-279.	Original Article
117	Hitoshi Shono, Rie Tsutsumi, Kana Beppu, 他	耳鼻咽喉科	Dietary supplementation with monosodium glutamate suppresses chemotherapy-Induced downregulation of the T1R3 taste receptor subunit in head and neck cancer patients	Nutrients 2021 Aug 24;13(9): 2921. オンライン	Original Article
118	Yasuaki Tamaki, Tomohiro Goto, Tomoya Takasago, 他	整形外科	Clinical and radiological outcomes of total hip arthroplasty using a highly porous titanium cup or a conventional hydroxyapatite-coated titanium cup: A retrospective study in Japanese patients.	J Orthop Sci. 2022 Jan.;27(1):163-168	Original Article
119	Shunichi Toki, Miyuki Sone, Akihiko Yoshida, 他	整形外科	Image-guided core needle biopsy for musculoskeletal lesions	J Orthop Sci .2022 Mar;27(2):448-455	Original Article
120	Ichiro Tonogai, Koichi Sairyō	整形外科	Posterior ankle arthroscopy for posterior ankle synovitis with an enlarged posterior talar process caused by a cat bite or scratch: A case report.	Int J Surg Case Rep. 2021 Apr;81:105761	Case report
121	Kinoshita Y, Nakano S, Yoshioka S, 他	整形外科	A Rare Case of Extremely Severe Heterotopic Ossification after Primary Total Hip Arthroplasty due to Persistent Mild Periprosthetic Joint Infection.	Case Rep Orthop. 2021 May22[eCollection 2021]	Case report
122	Kosuke Sugiura, Kazuta Yamashita, Hiroaki Manabe, 他	整形外科	Prompt return to work after bilateral transforaminal full-endoscopic lateral recess decompression under local anesthesia: A case report.	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2021 May;82(3):289-293	Case report

123	Ichiro Tonogai, Koichi Sairyo	整形外科	Temporary Kirschner wire fixation of the first metatarsophalangeal joint before osteotomy for hallux valgus.	Int J Surg Case Rep. 2021 Jul;84:106104	Case report
124	K. Sairyo, J. Fujitani, Takuya Kasamasu	整形外科	A Basic Exercise Strategy for Low Back Pain-Mini Review.	EC Orthopaedics. 2021 July 30;12(8):90-93	Review
125	Kosuke Sugiura, Masatoshi Morimoto, Kosaku Higashino, 他	整形外科	Transitional vertebrae and numerical variants of the spine : prevalence and relationship to low back pain or degenerative spondylolisthesis.	Bone Joint J. 2021 Jul;103-B(7):1301-1308	Original Article
126	Hiroaki Manabe, Toshinori Sakai, Yasuyuki Omichi, 他	整形外科	Role of growth plate (apophyseal ring fracture) in causing modic type changes in pediatric low back pain patients.	Eur Spine J. 2021 Sep;30(9):2565-2569	Original Article
127	Shunichi Toki, Tetsuro Yoshimaru, Yosuke Matsushita, 他	整形外科	The survival and proliferation of osteosarcoma cells are dependent on the mitochondrial BIG3-PHB2 complex formation.	Cancer Sci. 2021 Oct;112(10):4208-4219	Original Article
128	Tonogai I, Sairyo K.	整形外科	One-stage tibial deformity correction and ankle arthrodesis for ankle osteoarthritis and tibial malalignment after low tibial osteotomy.	Int J Surg Case Rep. 2021Dec;89:106624	Case report
129	Shoji Fukuta, Shinji Kawaguchi, Koichi Sairyo	整形外科	Partial thickness tear of the supraspinatus at the musculotendinous junction in a softball catcher.	J Med Invest. 2021;68(3.4):386-388	Case report
130	Kazutoshi Murao, Kanako Yamasaki, Hirokazu Agawa, 他	皮膚科	Bowen disease on the dorsum of the foot associated with human papillomavirus type 16	J Med Invest. 2022 Mar;69:152-154	Case report
131	Hiroki Yonezawa,Ryosuke Kawanishi,Hidetoshi Sasaki,他	麻酔科	Insertion of a Fogarty catheter through a slip joint section for neonatal and infantile one-lung ventilation:a report of two cases	The Journal of Medical Investigation.,2021;68(1.2):209-212	Case report
132	Michiko Kinoshita, Yasuhito Honda , Yoko Sakai, 他	麻酔科	Elevated tryptase in vancomycin-induced red man syndrome	J Anesth.2021 Oct,35(5):773-774	Case report
133	Soga T, Kawahito S, Mita N, 他	麻酔科	Viability of intensive insulin therapy during pediatric surgery.	Clinical Pediatric Anesthesia.2021,27:3-8	Review
134	Shusuke Numata, Masahito Nakataki, Naomi Hasegawa, 他	精神科神経科	Improvements in the degree of understanding the treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorder in a nationwide dissemination and implementation study.	Neuropsychopharmacol Rep;2021 Jun ;41(2):199-206	Original Article
135	Shinichi Chiba, Masahito Tomotake, Rie Tsutsumi, 他	精神科神経科	Characteristics of psychiatric nurses' observation techniques for psychopathological symptoms.	Journal of Medical Investigation; 2021;68(3.4):271-275	Original Article
136	Ryuichi Tanioka, Hirokazu Ito, Kensaku Takase, 他	精神科神経科	Usefulness of 2D video analysis for evaluation of shoulder range of motion during upper limb exercise in patients with psychiatric disorders.	Journal of Medical Investigation 2022;69(1.2):70-79	Original Article
137	Kubo S, Yasui T, Matsuura Y, 他	精神科神経科	Differences in male climacteric symptoms by aging male's symptoms scale and coping strategies with aging among rotating night shift workers.	Global Journal of Health Science;2022; 14(3):1-11	Original Article
138	Takeshi Iwasa, Yuri Yamamoto, Akari Shinya, 他	産科婦人科	The effects of androgens on metabolic functions in females.	J Med Invest. 2021Aug ;68(3.4):228-231.	Review
139	Takeshi Iwasa, Saki Minato, Junki Imaizumi, 他	産科婦人科	Effects of low energy availability on female reproductive function.	Reprod Med Biol. 2021 Sep 20;21(1):e12414.	Review
140	Shuhei Kamada, Yuri Yamamoto, Hidenori Aoki, 他	産科婦人科	A novel PCOS rat model and an evaluation of its reproductive, metabolic, and behavioral phenotypes.	Reprod Med Biol, 2021 Oct 2;21(1):e12416.	Original Article

141	Takako Kawakita, Toshiyuki Yasui, Kanako Yoshida, 他	産科婦人科	Correlations of androstenediol with reproductive hormones and cortisol according to stages during the menopausal transition in Japanese women.	J Steroid Biochem Mol Biol. 2021 Nov;214:106009.	Original Article
142	Atsuko Yoshida, Takashi Kaji, Junki Imaizumi, 他	産科婦人科	Transgender man receiving testosterone treatment became pregnant and delivered a girl: A case report	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Mar;48(3):866-868.	Case report
143	Takeshi Iwasa, Yuri Yamamoto, Hiroki Noguchi, 他	産科婦人科	Neuroendocrine mechanisms of reproductive dysfunctions in undernourished condition	J Obstet Gynaecol Res. 2022 Mar;48(3):568-575.	Review
144	Atsuko Yoshida, Takashi Kaji, Eishi Sogawa, 他	産科婦人科	Monochorionic Dizygotic Twins Conceived Spontaneously Showed Chimerism in Karyotype and Blood Group Type.	Twin Res Hum Genet. 2021 Jun;24(3):184-186.	Case report
145	Takashi Kaji, Kazuhisa Maeda, Eishi Sogawa, 他	産科婦人科	Sonographic detection and localization of fistulas in fetuses with imperforate anus: Case reports.	J Obstet Gynaecol Res. 2021 Aug;47(8):2767-2772. doi: 10.1111/jog.14824.	Case report
146	Arai Yuta; Nakanishi Nobuto; Ono Yuko; 他	放射線診断科	Rectus Femoris Muscle Mass Measured by Ultrasound is an Indicator of Whole-Body Muscle Mass at Intensive Care Unit Admission: A Retrospective Study	Research Square, 17 May 2021 DOI:10.21203/rs.3.rs-501371/v1	Research
147	Yuki Matsumoto, Masafumi Harada, Yuki Kanazawa, 他	放射線診断科	Quantitative parameter mapping of contrast agent concentration and relaxivity and brain tumor extracellular pH	Scientific Reports 2022 Feb 9;12(1):2171.	
148	Takayoshi Shinya	放射線診断科	Malignant Small Bowel Neoplasms: a review of post-contrast multiphase multidetector computed tomography	The Journal of Medical Investigation 2022;69(1.2):19-24.	Review
149	Yuta Arai, Nobuto Nakanishi, Yuko Ono, 他	放射線診断科	Ultrasound assessment of muscle mass has potential to identify patients with low muscularity at intensive care unit admission: A retrospective study	Clinical Nutrition ESPEN Volume 45, October 2021, Pages 177-183	Original article
150	Mayumi Takeuchi, Kenji Matsuzaki, Masafumi Harada	放射線診断科	Clinical value of N-acetyl mucinous compounds and lipid peaks in differentiating benign and malignant ovarian mucinous tumors by MR spectroscopy	Clin Imaging. 2021 Oct;78:127-135.	
151	Takayoshi Shinya, Yuichi Kojima, Yasumasa Monobe, 他	放射線診断科	MRI and CT features of a malignant myoepithelioma of the scrotum: A case report and literature review	Radiol Case Rep. 2021 Aug 4;16(10):2962-2968.	Case report
152	Mayumi Takeuchi, Kenji Matsuzaki, Masafumi Harada	放射線診断科	The feasibility of reduced field-of-view diffusion-weighted imaging in evaluating bladder invasion of uterine cervical cancer	Br J Radiol. 2022 Jan 1;95(1129):20210692.	
153	Hitoshi Ikushima, Akihiro Haga, Ken Ando, 他	放射線治療科	Prediction of out-of-field recurrence after chemoradiotherapy for cervical cancer using a combination model of clinical parameters and magnetic resonance imaging radionomics: a multi-institutional study of the Japanese Radiation Oncology Study Group	J Radiat Res. 2022 Jan 20;63(1):98-106.	
154	Yoshitaka Hosokawa, Ikuko Hosokawa, Kazumi Ozaki, 他	むし歯科	Nobiletin Inhibits Inflammatory Reaction in Interleukin-1 β -Stimulated Human Periodontal Ligament Cells	Pharmaceutics. 2021 May 7;13(5):667. (オンライン)	Original Article
155	Toshiyuki Suge, Kunio Ishikawa, Takashi Matsuo, 他	むし歯科	Duration of dentin tubule occlusion by calcium phosphate precipitation method - an in vivo study in beagle dogs	Dental Materials Journal. 2021 Jul;40(4):1020-1026	Original Article
156	Yoshitaka Hosokawa, Ikuko Hosokawa, Kazumi Ozaki	むし歯科	Nobiletin Decreases Inflammatory Mediator Expression in Tumor Necrosis Factor- α -Stimulated Human Periodontal Ligament Cells	Mediators of Inflammation. 2021 Jul 10;2021:5535844.1 (オンライン)	Original Article
157	Keiichi Hosaka, Shisei Kubo, Antonin Tichy, 他	むし歯科	Clinical effectiveness of direct resin composite restorations bonded using one-step or two-step self-etch adhesive systems: A three-year multicenter study	Dental Materials Journal. 2021 Sep;40(5):1151-1159	Original Article

158	Keiichi Hosaka, Antonin Tichy, Daisuke Araoka, 他	むし歯科	Eight-year Microtensile Bond Strength to Dentin and Interfacial Nanomechanical Properties of a One-step Adhesive	The Journal of Adhesive Dentistry. 2021 Oct;23(5):461-467	Original Article
159	Rie Kido, Jun-ichi Kido, Yasufumi Nishikawa, 他	歯周病科	Diagnosis of inflammatory peri-implant diseases using an immunochromatographic assay for calprotectin in peri-implant crevicular fluid	International Journal of Implant Dentistry. 2021 Oct; 7(1):106.	Original Article
160	Akihiro Wada, Keiji Murakami, Yumi Ishikawa, 他	歯周病科	Anti-Inflammatory and Protective Effects of Juncus effusus L. Water Extract on Oral Keratinocytes	BioMed Research International. 2022 Jan; Article ID 9770899 (オンライン).	Original Article
161	Koji Naruishi, Chie Wada -Mihara, Keiji Oishi, 他	歯周病科	Dental students' awareness after clinical training between dental treatment and systemic health: A questionnaire-based survey	Frontiers in Dental Medicine. 2022 January (オンライン)	Original Article
162	Mohammad Fadyl Yunizar, Megumi Watanabe, Tetsuo Ichikawa	そしやく科	Current development status of additive manufacturing technologies for fabricating removable partial denture frameworks: a literature review	Int J Comput Dent. 2022 Mar 24;25(1):57-70.	Review
163	Mohammad Fadyl Yunizar, Megumi Watanabe, Lipei Liu, 他	そしやく科	Metal Allergy Mediates the Development of Oral Lichen Planus via TSLP-TSLPR Signaling	J Clin Med. 2022 Jan 20;11(3):519. doi: 10.3390/jcm11030519.	Original Article
164	Yoshihiro Tagami, Keiko Fujimoto, Takaharu Goto, 他	そしやく科	Measurement of ultrasonic echo intensity predicts the mass and strength of the tongue muscles in the elderly	J Oral Sci. 2022 Jan 19;64(1):44-48. doi: 10.2334/josnusd.21-0351. Epub 2021 Dec 8.	Original Article
165	Takahiro Kishimoto, Takaharu Goto, Takashi Matsuda, 他	そしやく科	Application of artificial intelligence in the dental field: A literature review.	J Prosthodont Res. 2022 Jan 11;66(1):19-28. doi: 10.2186/jpr.JPR_D_20_00139. Epub 2021 Jan 14.	Review
166	Adityakrisna Yoshi Putra Wigianto, Takaharu Goto, Yuki Iwawaki, 他	そしやく科	Treatment outcomes of implant-assisted removable partial denture with distal extension based on the Kennedy classification and attachment type: a systematic review	Int J Implant Dent. 2021 Nov 13;7(1):111. doi: 10.1186/s40729-021-00394-z.	Review
167	Lipei Liu, Megumi Watanabe, Lipei Liu, 他	そしやく科	Dendritic Cells Directly Recognize Nickel Ions as an Antigen during the Development of Nickel Allergy	Journal of Oral Health and Biosciences. 2022 Jul; 34(2): 40-52	Original Article
168	Tetsuo Ichikawa, Takaharu Goto, Takahiro Kishimoto, 他	そしやく科	Does Prosthodontic Treatment Improve the Nutrition Status in the Elderly? Literature Review	Journal of Food and Nutrition Research, 2022, Vol. 10, No. 1, 26-31	Review
169	Junhel Dalanon, Sachiko Chikahisa, Tetsuya Shiuchi, 他	かみあわせ補綴科	Pain sensitivity increases with sleep disturbance under predictable chronic mild stress in mice	Scientific Reports. 2021 Jul;11:14231 (オンライン)	Original Article
170	Hiroo Kawahara, Miho Inoue, Kazuo Okura, 他	かみあわせ補綴科	Risk Factors for Tooth Loss in Patients with ≥25 Remaining Teeth Undergoing Mid-Long-Term Maintenance: A Retrospective Study	International Journal of Environmental Research and Public Health. 2021 Jul 5;18(13):7174 (オンライン)	Original Article
171	Hayama R, Okura K, Oshima M, 他	かみあわせ補綴科	Longitudinal comparison between flipped classroom and team-based learning in a prosthodontic class	Journal of Oral Health and Biosciences. 2021 Sep;34:1-10	Original Article
172	Liu Y, Xia L, Kano F, 他	かみあわせ補綴科	Low-intensity pulsed ultrasound ameliorates neuropathic pain induced by partial sciatic nerve ligation via regulating macrophage polarization	Journal of Oral Health and Biosciences. 2021 Sep;34:11-18	Original Article
173	Dalanon J, Matsuka Y	かみあわせ補綴科	Decreased global interest in oral cancer during the COVID-19 pandemic	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention. 2021 Jul;22:2117-2124	Original Article
174	Huijiao Yan, Masamitsu Oshima, Resmi Raju, 他	かみあわせ補綴科	Dentin-pulp complex tissue regeneration via three-dimensional cell sheet layering	Tissue Engineering, Part C: Methods. 2021 Oct;27:559-570	Original Article
175	Arief Waskitho, Yumiko Yamamoto, Swarnalakshmi Raman, 他	かみあわせ補綴科	Peripherally administered botulinum toxin type A localizes bilaterally in trigeminal ganglia of animal model	Toxins. 2021 Oct;13;704 (オンライン)	Original Article

176	Junhel Dalanon, Liz Muriel Diano, Yoshizo Matsuka	かみあわせ補綴科	Spatio-temporal differences in the Filipinos' search trends for toothache and milk tea	Acta Medica Philippina. 2022 Mar;56:18-24	Original Article
177	Junhel Dalanon, Yoshizo Matsuka	かみあわせ補綴科	Burnout is associated with amount of work and sleep quality of public-school dentists in the Caraga region	Acta Medica Philippina. 2022 Mar;56:49-55	Original Article
178	Toyoaki Takagi, So Shimizu, Eiji Tanaka	矯正歯科	Surgical orthodontic treatment of skeletal mandibular protrusion with multiple impacted ankylosed teeth treated with alveolar corticotomy.	Journal of Contemporary Dental Practice 2021 April;22(4):412-421	Case report
179	Mitsuhiro Iwata, Atsushi Saito, Yuko Kuroda, 他	矯正歯科	Comprehensive treatment for severe periodontitis with pathologic tooth migration-related binaxillary protrusion: A case report with 3-year follow-up.	Journal of American Dental Association 2021 June;152(6): 471-482.e2	Case report
180	Tanaka E	矯正歯科	Biomechanical and tribological properties of the temporomandibular joint.	Frontiers of Oral and Maxillofacial Medicine 2021 June;3:15	Review
181	Tsendsuren Khurel-Ochir, Takashi Izawa, Akihiko Iwasa, 他	矯正歯科	The immunoregulatory role of p21 in the development of the temporomandibular joint-osteoarthritis	Clinical and Experimental Dental Research 2021 June;7(3):313-322	Original Article
182	Tanaka E, Fujihara S, Shiota C	矯正歯科	Case report update: A case of unilateral mandibular condylar osteochondroma treated with ipsilateral condylectomy and contralateral ramus osteotomy.	American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics - Clinical Companion 2021 June.;1:89-91	Case report
183	Akiko Mino-Oka, Shinya Horiuchi, Rie Matsuda, 他	矯正歯科	A long-term follow-up of mandibular deviation caused by congenital cervical lymphangioma treated with an orthodontic approach.	Journal of Contemporary Dental Practice 2021 June;22(6):713-720	Case report
184	Hiroshi Yamada, Masaki Sawada, Eiji Tanaka	矯正歯科	Treatment of hemifacial microsomia using conventional orthodontic techniques: Report of a case with long-term follow-up.	Journal of the American Dental Association 2021 Aug;152(8):653-668	Case report
185	Islamy Rahma Hutami, Takashi Izawa, Tsendsuren Khurel-Ochir, 他	矯正歯科	Macrophage motility in wound healing is regulated by HIF-1 α via S1P signaling.	International Journal of Molecular Sciences 2021 Aug;22(16):8992	Review
186	Liu Y, Xia L, Kano F, 他	矯正歯科	Low-Intensity Pulsed Ultrasound Ameliorates Neuropathic Pain Induced by Partial Sciatic Nerve Ligation Via Regulating Macrophage Polarization.	Journal of Oral Health and Biosciences 2021 Sept;34(1):11-18	Original Article
187	Yuzo Hirai, Keiichiro Watanabe, Toru Deguchi, 他	矯正歯科	Influence of insertion depth on stress distribution in orthodontic miniscrew and the surrounding bone by finite element analysis.	Dental Materials Journal 2021 Sept;40(5):1270-1276	Original Article
188	Shinya Horiuchi, Hiroko Sato, Akihiko Iwasa, 他	矯正歯科	Long-term Management of a Patient with Apert Syndrome	Journal of Contemporary Dental Practice 2021 Oct;22(10):1184-1190	Case report
189	Hirofumi Tenshin, Jumpei Teramachi, Mohannad Ashtar, 他	矯正歯科	TGF- β -activated kinase-1 inhibitor LL-Z1640-2 reduces joint inflammation and bone destruction in mouse models of rheumatoid arthritis by inhibiting NLRP3 inflammasome, TACE, TNF- α and RANKL expression.	Clinical & Translational Immunology 2022 Jan;11(1):e1371	Original Article
190	Daishi Arai, Akihiro Yasue, Shinya Horiuchi, 他	矯正歯科	A multidisciplinary approach to malocclusion caused by facial multiple fracture.	Case Reports in Dentistry 2022 Mar 3;2022:5209667.	Case report
191	Yoshimura M, Uyama E, Sekine K, 他	矯正歯科	Volume Magnetic Susceptibility Estimation of α - and β -Phases in Titanium Alloys for Biomedical Applications.	Journal of Oral Health and Biosciences 2022 March;34(2):34-39	Original Article
192	Akihiko Iwasa, Eiji Tanaka	矯正歯科	Signs, Symptoms, and Morphological Features of Idiopathic Condylar Resorption in Orthodontic Patients: A Survey-Based Study.	Journal of Clinical Medicine 2022 Mar 11;11(6):1552.	Original Article

193	Yao Liu, Fumiya Kano, Noboru Hashimoto, 他	矯正歯科	Conditioned medium from the stem cells of human exfoliated deciduous teeth ameliorates neuropathic pain in partial sciatic nerve ligation models.	Frontiers in Pharmacology 2022 March ;13:745020	Original Article
194	Keiichiro Watanabe, Sanghee Lee, Damian Lee, 他	矯正歯科	Evaluation of clinical parameters for the stability of 2 types of miniscrews.	American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics 2022 March;161(3):437-444	Original Article
195	Tomonori Iwasaki, Spyridon N Papageorgiou, Youichi Yamasaki, 他	小児歯科	Nasal ventilation and rapid maxillary expansion (RME): a randomized trial	Eur J Orthod. 2021 Jun 8;43(3):283-292.	Original Article
196	Momota Y, Takano H, Kani K, 他	口腔内科	Idiopathic First Bite Syndrome Well-Treated with the Japanese Herbal Medicine Kakkonto: Analysis of Heart Rate Variability.	Oral Scie Jpn. 2021Mar; 31-32	Original Article
197	Go Ohe, Yasusei Kudo, Kumiko Kamada, 他	口腔外科	The Soluble Factor from Oral Cancer Cell Lines Inhibits Interferon- γ Production by OK-432 via the CD40/CD40 Ligand Pathway	Cancers 2021, Jun 13(13)3301	Original Article
198	Natsumi Takamaru, Naoyuki Fukuda, Kazuya Akita, 他	口腔外科	Association of PD L1 and ZEB 1 expression patterns with clinicopathological characteristics and prognosis in oral squamous cell carcinoma	ONCOLOGY LETTERS 2022 Mar;23(3):75	Original Article
199	Naoyuki Fukuda, Kunio Ishikawa, Youji Miyamoto	口腔外科	Alveolar ridge preservation in beagle dogs using carbonate apatite bone substitute	Ceramics International 48(2) 1796-1804 2022 Jan	Original Article
200	A Takahashi, K Kamada, T Kudoh, 他	口腔外科	Evaluation of anatomical references for locating the course of the posterior superior alveolar artery for dental implant surgery.	International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery 2022 Feb;51(2):257-262.	Original Article
201	Masashi Ishizu, Hiroyasu Mori, Mami Ohishi, 他	糖尿病臨床・研究開発センター	Urinary adiponectin excretion is an early predictive marker of the decline of the renal function in patients with diabetes mellitus	J Diabetes Complications. 2021 Apr;35(4):107848. / J Diabetes Complications. 2021 Jan(オンライン)	Original Article
202	Hiroyasu Mori, Akio Kuroda, Sumiko Yoshida, 他	糖尿病臨床・研究開発センター	High prevalence and clinical impact of dynapenia and sarcopenia in Japanese patients with type 1 and type 2 diabetes: Findings from the Impact of Diabetes Mellitus on Dynapenia study	J Diabetes Investig. 2021 Jun;12:1050-1059 / J Diabetes Investig. 2020 Nov(オンライン)	Original Article
203	Sonyun Hata, Hiroyasu Mori, Tetsuyuki Yasuda, 他	糖尿病臨床・研究開発センター	A low serum IGF-1 is correlated with sarcopenia in subjects with type 1 diabetes mellitus: Findings from a post-hoc analysis of the iDIAMOND study	Diabetes Res Clin Pract. 2021 Sep;179:108998 / Diabetes Res Clin Pract. 2021 Aug(オンライン)	Original Article
204	Doi T, Fukui M, Sakamoto H, 他	歯科衛生室	There is an association between gingival inflammation and obesity in Japanese male adolescents	Journal of Oral Health and Biosciences, 2021.33.2.33-38	Original Article
205	Masami Yoshioka, Yuichiro Kawashima, Yoshihiko Noma, 他	歯科衛生室	Association between diabetes-related clinical indicators and oral health behavior among patients with type 2 diabetes	J Med Invest, 2021;68(1.2):140-147.	Original Article
206	Chikako Kane, Satoshi Sakaguchi, Masayuki Chuma, 他	総合臨床研究センター	Research Ethics Consultation in Nursing Studies	Journal of empirical research on human research ethics;JERHRE 2022 Feb-Apr;17(1-2):63-69. doi: 10.1177/15562646211036577. Epub 2021 Aug 10. (オンライン)	Original Article
207	Hirofumi Hamano, Chisato Mitsushashi, Yoshiko Suzuki, 他	薬剤部	Effects of Palonosetron on Nausea and Vomiting Induced by Multiple-Day Chemotherapy: A Retrospective Study	Biological and Pharmaceutical Bulletin. 2021 Apr ; 44(4): 478-484.	Original Article
208	Mitsuhiro Goda, Momo Ikehara, Mako Sakitani, 他	薬剤部	Involvement of human multidrug and toxic compound extrusion (MATE) transporters in testosterone transport.	Biological and Pharmaceutical Bulletin. 2021 Apr ; 44(4): 501-506.	Original Article
209	Mitsuhiro Goda, Masaya Kanda, Toshihiko Yoshioka, 他	薬剤部	Effects of 5-HT ₃ receptor antagonists on cisplatin-induced kidney injury.	Clinical and Translational Science. 2021 Sep; 14(5): 1906-1916.	Original Article
210	Naoto Okada, Noriko Fujiwara, Momoyo Azuma, 他	薬剤部	Assessment of adherence to post-exposure prophylaxis with oseltamivir in healthcare workers: a retrospective questionnaire-based study.	Biological and Pharmaceutical Bulletin. 2021 Jun; 44(6): 869-874.	Original Article

211	Shimon Takahashi, Kenshi Takechi, Natsumi Jozokuri, 他	薬剤部	Examination of the antiepileptic effects of valacyclovir using kindling mice -Search for novel antiepileptic agents by drug repositioning using a large medical information database.	European Journal of Pharmacology. 2021 Jul; 902: 174099.	Original Article
212	Naoto Okada, Yuki Izumi, Aki Nakamoto, 他	薬剤部	Impact of area under the concentration-time curve on the incidence of vancomycin-induced nephrotoxicity in combination with tazobactam/piperacillin or ceftipime: a single-institution retrospective study.	Clinical Therapeutics. 2021 Nov; 43(11): 1910-1920	Original Article
213	Yoshito Zamami, Hirofumi Hamano, Takahiro Niimura, 他	薬剤部	Drug-repositioning approaches based on medical information and life science databases.	Frontiers in Pharmacology. 2021 Nov ; 12: 752174.	Review
214	Masayuki Chuma, Kenshi Takechi, Kenta Yagi, 他	薬剤部	Academic investigators' interest in promoting specified clinical trials: Questionnaire survey before and after implementation of the Clinical Trial Act.	The Journal of Medical Investigation. 2021; 68(1.2): 71-75.	Original Article
215	Yukako Homma, Yasunobu Hayabuchi	小児科	Descending aorta flow pattern in a neonate with patent ductus arteriosus coexisting with liver hemangioma.	J Echocardiogr. 2021 Apr 9. doi: 10.1007/s12574-021-00515-y. Online ahead of print.	Case report

計215件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	該当なし				Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 委員会規則（組織、申請手続き、審議、有害事象、実施状況報告、終了報告など会議等委員会運営に必要な事項）、2. 生命科学・医学系研究実施に係る標準業務について、3. 生命科学・医学系研究に関連する重篤な有害事象対応について、4. 研究者主導臨床研究でのモニタリング又は監査の受入れについて、5. 他の研究機関への既存試料・情報提供について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理規程（管理の概要、手続き及び方法、勧告及び監査）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 総合臨床研究センターが主催する e-ラーニング（臨床研究実施の基準と現状、日本における倫理指針と倫理性担保、倫理委員会申請手続き、CRC活動と臨床研究支援、研究倫理、モニタリング・監査、臨床研究法）	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

希望する診療領域に応じて卒後 3～6 年を目処に基本領域の専門医を取得した後、高度先進医療・先端医療を担うべくサブスペシャリティ領域の専門医取得を目指す。また、本人の希望により、並行して社会人大学院に在籍して医学博士号の取得や、臨床技術研鑽及び研究のための他施設(国内外)での研修も可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	262人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
和泉唯信	内科	教授	27年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	内科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	内科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	内科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
脇野 修	内科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
安倍正博	内科	教授	38年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	循環器内科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
和泉唯信	脳神経内科	教授	27年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	消化器内科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
脇野 修	腎臓内科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
遠藤逸朗	内分泌・代謝内科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
安倍正博	血液内科	教授	38年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	呼吸器・膠原病内科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
秦 広樹	外科	教授	25年	診療科長・プログラム責任者
島田光生	外科	教授	38年	診療科長・プログラム責任者
滝沢宏光	外科	教授	26年	診療科長・プログラム責任者
島田光生	消化器・移植外科	教授	38年	診療科長・プログラム責任者
滝沢宏光	呼吸器外科	教授	26年	診療科長・プログラム責任者
後藤正和	食道・乳腺甲状腺外科	講師	18年	診療科長・プログラム責任者
石橋広樹	小児外科	病院教授	33年	診療科長・プログラム責任者
秦 広樹	心臓血管外科	教授	25年	診療科長・プログラム責任者
金山博臣	泌尿器科	教授	40年	診療科長・プログラム責任者
西良浩一	整形外科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
高木康志	脳神経外科	教授	29年	診療科長・プログラム責任者
久保宜明	皮膚科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
三田村佳典	眼科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
北村嘉章	耳鼻咽喉科	教授	25年	診療科長・プログラム責任者
原田雅史	放射線科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
岩佐 武	産婦人科	教授	20年	診療科長・プログラム責任者
沼田周助	精神科	教授	21年	診療科長・プログラム責任者
漆原真樹	小児科	教授	27年	診療科長・プログラム責任者

田中克哉	麻酔科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
橋本一郎	形成外科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
大藤 純	救急科	教授	25年	診療部長・プログラム責任者
上原久典	病理診断科	教授	32年	診療部長・プログラム責任者
谷 憲治	総合診療部	教授	40年	診療部長・プログラム責任者
松浦哲也	リハビリテーション科	教授	29年	診療部長
佐藤 紀	リハビリテーション科	講師	20年	プログラム責任者

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>1) 「医療専門職部門キャリア形成支援研修会」</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の期間・実施回数 令和3年4月～令和4年3月 ・12回・研修の参加人数 403人 <p>2) 看護師特定行為研修（指定研修機関）</p> <ul style="list-style-type: none">・研修期間 令和3年4月～令和4年3月・研修の参加人数 術中麻酔管理領域パッケージ（8行為）1名、外科系基本領域パッケージ他（8行為1名、10行為1名）2名、血糖管理コース他（4区分6行為）1名、計4名が全32行為の研修を修了。 <p>3) 院内認定コース</p> <ul style="list-style-type: none">・ミドルレベル看護師を対象に、専門的領域のスキルアップを目指して年間を通じたコース研修を開講（全13コース：①がん化学療法看護、②緩和ケア、③乳がん看護、④がん放射線療法看護、⑤リスク管理、⑥感染管理、⑦褥瘡看護、⑧糖尿病、⑨新生児集中ケア、⑩手術看護、⑪認知症看護、⑫CRC、⑬エキスパート助産師）・研修の期間・実施回数 令和3年6月～令和4年3月。各コース16～36回（全365回）の研修を開催。・研修の参加人数 延べ1054名が参加。28名がコース研修修了し、病院長より「院内認定看護師」の認定を受ける。 <p>4) 院内認定フォローアップ研修</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の期間・実施回数 院内認定コース修了者を対象にフォローアップ研修（全15コース、上記13コースに加え⑭集中ケア、⑮脳卒中リハビリテーション看護）を年1回以上開催。研修回数は全31回・研修の参加人数 延べ172名。
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>1) 退院支援看護師養成コース、およびフォローアップ研修</p> <ul style="list-style-type: none">・入院時から退院支援を円滑に実施できる看護師を養成するためのコース研修を開催。・研修の期間・実施回数 令和3年7月～令和4年2月 研修回数は9回・研修の参加人数 延べ191名。4名がコース研修を修了し、病院長より「退院支援看護師」の認定を受ける。・フォローアップ研修として、令和2年度以前の修了者14名が上記研修を受講。
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p>

1) 「徳島大学病院心・血管エコー検査修得プログラム研修」

認定超音波検査士の取得に必要な基礎から臨床までの幅広い知識を学習するため、あわせて医療現場ですぐに役立つエコー検査の技術習得のための研修を受け入れている。

- ・研修の期間・実施回数 令和3年4月1日～令和4年3月31日 ・1年間
- ・研修の参加人数 1人（臨床検査技師）

2) 医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、歯科衛生士等の免許を有する者を徳島大学病院の当該部署において研修させる。

- ・研修の期間・実施回数（延べ日数）・研修の参加人数
- （医師）令和3年6月～令和4年2月 ・31日 ・2名
- （看護師）令和3年4月～令和3年11月 ・27日 ・5名
- （臨床検査技師）令和3年4月～令和4年3月 ・340日 ・8名
- （診療放射線技師）令和3年5月～令和4年3月 ・90日 ・1名
- （歯科衛生士）令和3年8月～令和4年3月 ・12日 ・3名

3) 看護師特定行為研修（指定研修機関）

- ・研修の期間 令和3年4月～令和4年3月
- ・研修の参加人数 徳島県内の急性期病院3施設より3名の看護師を受け入れ、全員が術中麻酔管理領域パッケージ（8行為）を修了。

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	①. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 香美 祥二	
管理担当者氏名	総務課長 泉 朗 経理調達課長 垣添 裕之 医事課長 原田 直樹 薬剤部長 石澤 啓介 看護部長 上田 美香 医療技術部長 中尾 隆之 病院情報センター部長 廣瀬 隼 手術部長 高木 康志 放射線部長 原田 雅史 ME管理センター長 田中 克哉	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科(部)
		処方せん	病院情報システム
		手術記録	病院情報システム
		看護記録	病院情報システム
		検査所見記録	病院情報システム
		エックス線写真	病院情報システム
		紹介状	病院情報システム
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院情報システム
		文書ファイル又は電子媒体で保管 ※診療録の病院外持ち出しは認めていない	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
文書ファイルで保管			
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課		

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	文書ファイルで保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医事課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 医事課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME管理センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME管理センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME管理センター	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME管理センター			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課 医事課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課 医事課
管理者が有する権限に関する状況	総務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	事務部次長 脇元 直彦
閲覧担当者氏名	総務課長 泉 朗
閲覧の求めに応じる場所	・総務課
閲覧の手續の概要 閲覧請求を申請する者は、事前に担当部署に申請を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>徳島大学病院（以下「本院」という。）の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療（最先端医療を含む）を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。</p> <p>特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 用語の定義 2 安全管理に関する基本的考え方 3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本的事項 4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針 5 医療上の事故等の報告に関する基本方針 6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 7 患者等からの相談及び苦情等への対応に関する基本方針 8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年14回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>リスクマネジメント委員会（毎月原則1回）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療上の事故等防止のための安全管理の方策に関すること。 2 医療上の事故等発生時の対応に関すること。 3 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品、未承認新規医療機器を用いた医療の提供に関すること。 4 医薬品及び医療機器の安全使用に関すること。 5 その他医療上の事故等に関すること。 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>令和3年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 第1回安全管理研修会「医薬品の安全管理について」 第2回安全管理研修会「嚙下障害について」 第3回安全管理研修会「看護師特定行為について」 第4回安全管理研修会「緩和ケアについて」 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>事故報告等の報告に関しては、「徳島大学病院インシデント等発生時の報告に関する取扱要項」を定め、「インシデント報告システム」により報告される。報告されたインシデントは、リスクマネージャーからの報告や安全管理部リスクマネジメント部門員による現場確認及び当事者等の事情聴取により確認され、安全管理部リスクマネジメント部門会議（分析）において、インシデント報告書に基づき改善策を検討する。次に、リスクマネジメント部門会議（分析）での改善策をリスクマネジメント部門会議（全体）で検討する。さらに、これらの改善策をリスクマネジメント委員会で審議した上、リスクマネージャー連絡会でフィードバックする。</p> <p>次のステップとして、実施された改善策のうち、実施状況を把握する必要があると認められる</p>	

インシデントについては、リスクマネジメント部門会議（評価）で評価し、改善策を検討する。上記と同様に、リスクマネジメント部門会議（評価）での改善策をリスクマネジメント部門会議（全体）で検討する。次に、これらの実施された改善策をリスクマネジメント委員会で審議した上、リスクマネージャー連絡会で再度フィードバックする。さらに、実施状況を把握する必要があると認められるインシデントについては、リスクマネジメント部門会議（評価）からリスクマネージャー連絡会でのフィードバックを繰り返し行う。（P D C A手法を取り入れている。）

分析方法については、インシデント報告された報告事例（一月約300件程度）を職種の違う担当者が分担して1件1件内容を確認し、インシデントへの意見等を出し合う。その中で、インシデントが警鐘的な事例や、インシデントが他部署にわたる事例など、また、全国的に頻発している事例などを選び、2～3事例、SHELL分析にて毎月分析をしている。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>徳島大学病院(以下「本院」という。)の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療(最先端医療を含む)を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。</p> <p>特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 用語の定義 2 安全管理に関する基本的考え方 3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本事項 4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針 5 医療上の事故等の報告に関する基本方針 6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 7 患者等からの相談及び苦情等への対応に関する基本方針 8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>感染対策委員会(毎月原則1回)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 院内感染の予防及び対策に関すること。 2 院内感染防止の実施、監視及び指導に関すること。 3 院内感染発生時の措置に関すること。 4 職員の院内感染の教育に関すること。 5 感染制御部の運営に関すること。 6 その他院内感染に関すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <p>令和3年度</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 第1回感染対策研修会「正しい血液培養 について」、「抗菌薬使用量調査から見える当院の感染症治療の特徴と課題」 ② 第2回感染対策研修会「新型コロナワクチンの効果・副反応」、「冬に流行する感染症とCOVID-19第6波に向けての感染対策」、「術後感染予防抗菌薬を再考する適切な薬剤・投与期間・投与間隔について」 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 毎週1回、ICTラウンドを計画的に実施、改善点を部署にフィードバックし、更にICNラウンドで確認している。 2 抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬について、届出制を実施しているが、抗MRSAについてはTDMの実施状況と抗MRSAの適正使用について毎月検討している。 3 HIVチームカンファレンスを実施し、2ヶ月に1回開催しているHIV/エイズ小委員会で院内のHIV症例の事例検討や検査結果の報告をしている。 4 職業感染対策として、全職員の抗体の有無を把握している。針刺し等防止対策としては、曝露者の面 	

接をすべての事例で行い、改善策をフィードバックしている。

5 ICUでのBSIサーベイランス、消化器外科・小児対象の心臓血管外科でのSSIサーベイランスを実施している。

6 教育体制として、①感染対策研修会、②部署別出張研修、③研修医研修、④看護師研修(新人、2年目、専門)、⑤感染管理院内認定コース、⑥育休復帰者研修に分けて計画している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○当院における医薬品安全管理体制について <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品安全管理責任者の配置 ・ 医薬品安全管理業務手順書 ・ 医薬品安全使用のための職員研修 ・ 未承認等の医薬品に関わる体制 ○処方、医薬品管理の注意点について <ul style="list-style-type: none"> ・ 類似名称、外観類似医薬品の取扱い注意 ・ 麻薬、覚醒剤原料、向精神薬、毒薬等の管理方法 ○医薬品安全性情報の重要性について ○副作用報告制度について ○抗がん剤の取扱いとレジメン管理について 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 与薬や薬剤管理など医薬品に係る業務の実施状況を確認し、結果をフィードバックして改善に向けて取り組んでいる。 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： <ul style="list-style-type: none"> 超早期発症型炎症性腸疾患の小児患者に対しエンタイビオ点滴静注用 (有効成分ベドリズマブ) を使用した。 用法・用量、投与スケジュール： <ul style="list-style-type: none"> 1回60mgを点滴静注する。初回投与後、2週、6週に投与し、以降8週間隔で点滴静注する。 使用区分：適応外使用 有害事象の把握方法：血液検査 (血算、生化学一般、CRP等) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 全病棟に薬剤師を配置し、持参薬を含めた医薬品を管理する体制を構築している。 院内で発生した副作用やインシデント内容を週1回の薬剤部カンファレンスで薬剤部職員に周知している。 医薬品を適応外使用する場合の院内規定を設けるとともに、適応外使用の状況を把握し、医薬品安全管理責任者から安全管理部・リスクマネジメント委員会への報告、必要性等の確認、情報共有および診療科長等を介した必要な指導等をおこなう体制を構築している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年58回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 新しい医療機器の導入時の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 使用した経験のない新しい医療機器を導入する際には、当該医療機器を使用する予定の医療従事者に対する研修会を実施し、その記録を保存している。 ・ 令和3年度における新しい医療機器を導入する際に開催した研修会は、医療機器5機種に対して、計21回（参加人数：176名）実施した。 <p>(2) 特定機能病院における医療機器研修（院内研修会）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定機能病院として、特に安全使用に際しての技術の習熟が必要と考えられる医療機器については、研修会を実施し、その記録を保存している。 ・ 2022年度新規採用者オリエンテーション（対象：医師、看護師）にて、医療機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ）の研修会（開催回数：3回、参加人数：27名）を実施し、正しい操作方法を身に付け、インシデントを予防するためのポイントを学ぶことを目的に実技研修も取り入れている。 ・ 2022年度新規採用者オリエンテーション（対象：医師）にて、医療機器（除細動装置）も同様に研修会（開催回数：1回、参加人数：11名）を実施した。 ・ 平成27年度から各病棟（東病棟、西病棟）、外来などの各部署から個別依頼された医療機器の研修会は不定期（要望依頼時）に実施することにより、平成26年度まで実施していた定期研修会より従事者の参加人数が増加している。 ・ 令和3年度に実施した医療機器は人工呼吸器（ネーザルハイフロー等含む）、除細動装置、閉鎖式保育器等で、計24回（参加人数：241名）実施した。医療機器の研修会については、臨床工学技士または医療機器製造販売メーカー担当者が医療機器の正しい操作方法、またはトラブルシューティングなどについて説明している。 ・ 令和3年度も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の為、徳島大学病院内の開催予定であった医療機器研修会（開催方法：対面式）は中止、または延期になっている部署も見られた。 <p>(3) 特定機能病院における医療機器研修（院外研修会）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度における医療機器及び医療ガスの研修・講習（対象：臨床工学技士）では、院外研修会（開催方法：WEB研修会、eラーニング）は計9回（参加人数：46名）であった。 ・ 令和3年度も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の為、徳島県内外で開催予定であった医療機器研修会及び講習会（開催方法：対面式）は中止、または延期になっている。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有 無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>・ 主な医療機器（①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置、⑤閉鎖式保育器、⑥X線CT装置、⑦診療用高エネルギー放射線発生装置、⑧診療用放射線照射装置、⑨MRI装置等）の保守点検に関する計画の策定及び保守点検を実施している。具体的には、医療機器製造販売メーカーの指定期間（使用年数または使用時間）により、プリベントティブメンテナンスや機器のオーバー・ホールを各メーカーへ依頼し、実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：使用事例無し</p>	

- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 医療機器の添付文書及び医薬品・医療機器総合機構（PMDA）の医療機器安全性情報サービスに登録し、情報を収集している。また、直接、医療機器製造販売メーカーから不具合情報や安全情報を得ている。収集した医療機器に関連した不具合情報や安全情報、情報の性質や内容により異なるが、使用者（医療従事者）や内容が特定の部署に限定される場合には個別に必要部署のみに周知し、多くのスタッフが知る必要がある場合には、安全管理部等を通じて院内周知している。
 - ・ 医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き（2021年7月30日改訂、電波環境協議会、総務省）を参考にして、令和3年12月より、各病棟等にて使用されている医用テレメータ（ベッドサイドモニター、送信機）のチャンネル管理及びゾーン管理ができる医療機器保守管理システムを新たに導入し、運用を開始している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日から医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理担当の副院長をもって充てている。 また、同規則にて、医療安全管理責任者が安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する規定を定めている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（7名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>緊急安全性情報・安全性速報等の医薬品情報を収集および整理し、医療スタッフへ情報提供する体制を整えている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>薬剤部内に医薬品の安全管理を担う担当者（薬剤部安全管理担当者）を定めるとともに、未承認等の医薬品に関する使用状況の把握、必要性等の確認、情報の共有および診療科長等を介した必要な指導等をおこなう体制を整えている。</p> <p>・担当者の指名の有無（有）無</p> <p>・担当者の所属・職種：（所属：薬剤部、職種 薬剤師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無（有）無</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日からインフォームドコンセント責任者を置き、インフォームドコンセントガイドラインの管理・周知徹底、適切な実施及び指導等の業務を行う規定を定めた。</p> <p>インフォームドコンセントガイドラインの主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目的 2 対象 3 説明して同意を得る手順 <ul style="list-style-type: none"> ・誰が説明し、誰が立ち会うのか ・どこで行うのか ・記録と保管 ・説明と同意 	

- ・説明の内容
- ・セカンドオピニオンについて
- ・代理人が必要な場合の説明と同意
- ・緊急時の対応

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録等の管理に関する責任者の選任にあたっては、徳島大学病院診療録管理規則により、本院の医療支援センター長を診療録管理責任者として充てている。</p> <p>診療録管理責任者は、診療録の記載内容を確認し、診療録の適切な管理を行うものとしている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（１）名、兼任（２）名</p> <p>うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（ ）名</p> <p>うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> （１）本院において発生した医療上の事故等の原因究明、調査、分析及び対策の検討並びに当該医療上の事故等の再発防止に関すること。 （２）事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関すること。 （３）患者及び家族への説明等事故発生時の対応状況についての確認及び指導に関すること。 （４）医療上の事故等の防止に関する教育及び研修の企画及び実施に関すること。 （５）医療上の事故等の防止に関する情報の収集及び提供に関すること。 （６）医療上の事故防止安全対策マニュアルの改訂に関すること。 （７）インシデント報告の管理に関すること。 （８）リスクマネジメント委員会で用いられる資料及び議事要録の作成及び保存、その他リスクマネジメント委員会の庶務に関すること。 （９）医療安全に係る連絡調整に関すること。 （１０）医薬品の安全使用に係る連絡調整に関すること。 	

(11) 医療機器の安全使用に係る連絡調整に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（8件）、及び許可件数（7件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器を用いた医療の提供についての審査に関すること。
 - (2) 高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器を用いた医療実施後の症例報告の検証に関すること。
 - (3) その他高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器に関すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（20件）、及び許可件数（18件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 未承認新規医薬品を用いた医療の提供についての審査に関すること。
 - (2) 未承認新規医薬品を用いた医療の提供後の報告に関すること。
 - (3) その他未承認新規医薬品に関すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 2 3 2 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 8 3 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - (1) 医療上の事故等防止のための安全管理の方策に関すること。
 - (2) 医療上の事故等発生時の対応に関すること。
 - (3) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品及び未承認新規医療機器を用いた医療の提供に関すること。
 - (4) 医薬品及び医療機器の安全使用に関すること。
 - (5) その他医療上の事故等に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：島根大学医学部附属病院) ・無)
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：岡山大学病院) ・無)
- ・技術的助言の実施状況

令和3年度は、全国における新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえ、訪問調査を取りやめ、紙面調査となった。本院から島根大学医学部附属病院を書類確認した。また、本院も岡山大学医学部附属病院からのチェックを受けた。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

院内の患者相談は全て患者支援センターを窓口としており、患者から分かりやすい場所に立地している。当該センターで受け付けた安全管理に係る相談は、その内容に応じて、医療安全管理部門など適切な専門の担当部署に振り分け、患者支援センターの相談員と協働して相談に対応する。また、患者相談の内容と対応状況は、患者支援センター内の会議（実務者会議）で報告され、当該センターが至急又は重大と判断する相談内容は、病院長に直接報告を行う。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

現在行われている医療に係る安全管理及び医薬品等の安全使用のための研修において、必ず実施すべき研修項目を追加する。また、e-learning を活用したテスト等により、学習効果測定を実施する。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

毎年安全管理研修会を院内において実施し、管理者をはじめ、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全責任者が必ず毎年受講している。

また、令和3年度は管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全責任者がそれぞれ日本医療機能評価機構主催の特定機能病院管理者研修に参加した。

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

◆ ISO9001

一般社団法人日本能率協会審査登録センター

登録日：2002年12月18日

登録有効期限：2023年12月17日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

公表すべき事項は該当なし

・評価を踏まえ講じた措置

品質マネジメントシステムの継続的改善と有効性の確認

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> 基準の主な内容 徳島大学病院長選考委員会が策定した選考基準案に基づき、大学役員会の議を経て、選考基準を決定し公表する。 基準に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） 公表の方法 web上にて公表

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無			
<ul style="list-style-type: none"> 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） 公表の方法 Web上にて公表 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
河村 保彦	徳島大学	○	徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第1号により、学長が指名する理事として選出された者	<input checked="" type="radio"/> 有・無
佐々木 卓也	徳島大学		徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第1号により、学長が指名する理事として選出された者	<input checked="" type="radio"/> 有・無
赤池 雅史	徳島大学		徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第2号により、医学部長として選出された者	<input checked="" type="radio"/> 有・無
馬場 麻人	徳島大学		徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第3号により、歯学部長として選出された者	<input checked="" type="radio"/> 有・無
稲井 芳枝	徳島県看護協会		徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第4号により、学長が委嘱する学外の有識者として選出された者（徳島県の医療・保健・福祉について、豊富な経験と高い識見を有している。）	有 <input checked="" type="radio"/> 無

齋藤 義郎	徳島県医師会		徳島大学病院長候補者選考委員会規則第2条第1項第4号により、学長が委嘱する学外の有識者として選出された者（徳島県の医療・保健・福祉について、豊富な経験と高い識見を有している。）	有・無
-------	--------	--	--	-----

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 本院の管理運営に関する重要事項を審議する。 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 審議の概要は、診療科連絡会において全部署のスタッフに周知が図られる。 ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・ 公表の方法 web上にて公表 ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
香美 祥二	○	医師	病院長
金山 博臣		医師	副病院長 (総務担当)
原田 雅史		医師	副病院長 (診療担当)
湯本 浩通		歯科医師	副病院長 (歯科担当)
高木 康志		医師	副病院長 (医療安全管理担当)
上田 美香		看護師	副病院長 (看護担当)
安倍 正博		医師	病院長補佐 (教育・研修・地域連携担当)
大藤 純		医師	病院長補佐 (救急・災害担当)
川人 伸次		医師	病院長補佐 (医歯連携担当)
三田村 佳典		医師	病院長補佐 (ダイバーシティ・環境担当)
廣瀬 隼		医師	病院長補佐 (病院情報担当)
西良 浩一		医師	病院長補佐 (病院業務強化担当)
中尾 隆之		技師	病院長補佐 (医療支援担当)
近藤 武		外部有識者	病院長補佐 (経営担当)
脇元 直彦		事務	病院長補佐 (事務担当)
松浦 哲也		医師	リハビリテーション部

上原 久典		医師	病理部
坂東 良美		医師	病理部
谷 憲治		医師	総合診療部
船木 真理		医師	糖尿病対策センター
加藤 剛志		医師	地域産婦人科診療部
板垣 大雅		医師	E R・災害医療診療部
酒井 陽子		医師	麻酔科診療部
早瀬 康信		医師	地域小児科診療部
佐田 政隆		医師	内科（循環器内科）
西岡 安彦		医師	内科（呼吸器・膠原病内科）
高山 哲治		医師	内科（消化器内科）
脇野 修		医師	内科（腎臓内科）
遠藤 逸朗		医師	内科（内分泌・代謝内科）
和泉 唯信		医師	内科（脳神経内科）
秦 広樹		医師	外科（心臓血管外科）
後藤 正和		医師	外科（食道・乳腺甲状腺外科）
滝沢 宏光		医師	外科（呼吸器外科）
島田 光生		医師	外科（消化器・移植外科）
石橋 広樹		医師	外科（小児外科・小児内視鏡外科）
北村 嘉章		医師	感覚・皮膚・運動機能科（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
久保 宜明		医師	感覚・皮膚・運動機能科（皮膚科）
橋本 一郎		医師	感覚・皮膚・運動機能科（形成外科）
田中 克哉		医師	脳・神経・精神科（麻酔科）
沼田 周助		医師	脳・神経・精神科（精神科）
漆原 真樹		医師	小児・周産・女性科（小児科）
岩佐 武		医師	小児・周産・女性科（産科婦人科）
生島 仁史		医師	放射線治療科
保坂 啓一		歯科医師	歯科（むし歯科）
市川 哲雄		歯科医師	歯科（そしゃく科）
松香 芳三		歯科医師	歯科（かみ合わせ補綴科）
細木 秀彦		歯科医師	歯科（歯科放射線科）

田中 栄二		歯科医師	矯正歯科（矯正歯科）
岩崎 智憲		歯科医師	小児歯科（小児歯科）
青田 桂子		歯科医師	歯科口腔外科（口腔内科）
宮本 洋二		歯科医師	歯科口腔外科（口腔外科）
池本 哲也		医師	安全管理部
東 桃代		医師	感染制御部
河野 文昭		歯科医師	総合歯科診療部
加地 剛		医師	周産母子センター
石澤 啓介		薬剤師	薬剤部長
阪上 浩		医師	栄養部長
竹谷 豊		栄養士	臨床食管理学
安井 敏之		医師	生殖・更年期医療学
日野出 大輔		歯科医師	口腔保健衛生学
松久 宗英		医師	糖尿病臨床・研究開発センター
岩田 貴		医師	卒後臨床研修センター

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有 無）
- ・ 公表の方法 web上にて公表
- ・ 規程の主な内容
（徳島大学病院規則）
 - ・ 病院長は、本院の業務を統轄し、職員を監督するとともに、教育研究、診療及び経営に従事し、かつ、管理運営をつかさどる。
 - ・ 病院長は、本院を代表し、その責任者となる。
（徳島大学病院院内組織に関する内規）
 - ・ 各診療科に診療科長及び副診療科長を置く。
 - ・ 診療科長は、当該診療科を担当する教授、准教授又は講師のうちから病院長が任命する。
 - ・ 病院長は、前条の診療科長が次の各号のいずれかに該当する場合は、病院運営会議の議を経て、診療科長を解任することができる。
 - (1) 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
 - (2) 職務上の義務違反があるとき。
 - (3) その他診療科長たるに適しないと認めるとき。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - ・ 副病院長5名（総務、診療、歯科、医療安全管理、看護）
 - ・ 副病院長は、病院長の命を受けて、特定の事項を担当する。
 - ・ 病院長補佐9名（教育・研修・地域連携、救急・災害、医歯連携、ダイバーシティ・環境、病院情報、病院業務強化、医療支援、経営、事務）
 - ・ 病院長補佐は、病院長の職務を補佐する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
管理者向けの研修に参加させている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容： 次の事項を審議する。 1 病院の医療安全に係る業務遂行の状況に対する監査に関する事。こと。 2 安全管理状況及び改善状況に関する事。こと。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：徳島大学、徳島大学病院のホームページにて公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市民病院・ 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有 (無)	1
白川 剛	白川剛法律事務所・ 弁護士		法律に関する識見を有するため	有 (無)	1
上田 伊佐子	徳島文理大学 保健福祉学部 ・教授		医療安全管理についての知識を有し、医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける者の立場から意見を述べる事ができる者(学識経験を有する者)	有 (無)	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

徳島大学監査室において、病院も含めた全学の業務方法書、規則等の整備状況及び実施状況、中期計画に基づく組織及び制度全般の運営状況等について監査を行っている。

また、コンプライアンス事案を把握した場合は、国立大学法人徳島大学におけるコンプライアンスの推進に関する規則に基づき、調査を行う。

- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法 web上にて公表

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 徳島大学経営協議会をもって充てることとし、病院長が委員として出席し、病院の経営に関する事項について審議を行うこととしている。 ・ 会議体の実施状況（ 年8回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年8回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 web上にて公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年〇件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 徳島大学のホームページにて周知、院内各部署に通知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>1) 病院ホームページへの掲載</p> <p>2) 広報誌：①病院概要</p> <p style="padding-left: 40px;">②徳大病院だより “いきいきらいふ” 年 4 回発行（5,000部×4回）</p> <p>3) 市民公開講座（徳島大学病院フォーラム）年 1 回開催</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>・ がん診療連携センター 都道府県がん診療連携拠点病院の指定をうけ、複数の診療科と県内 3ヶ所の地域がん診療連携拠点病院および他の様々な医療機関と連携して、県内のがんの診断・治療の向上のみならず、がん医療の相談支援、情報提供、地域連携および均てん化を図る中心的な役割を果たしている。 本センターは、がん研究・研修部門、がん登録部門、がん診療連携・相談部門、がん診療企画部門、がん化学療法部門、がん緩和・こころのケア部門の 6つの部門から構成されている。医師、看護師、薬剤師、技師、心理士、事務職員がそれぞれ高い志の下に連携し、最新の診断・治療機器や高度な治療技術を駆使した横断的な医療の実践のみならず、看護、研究、啓発、情報発信、人材育成まで含めた幅広い分野でがんと闘う組織を整備している。</p> <p>・ 医科と歯科の連携 医科入院患者および I C U 患者、手術・放射線・化学療法前患者に対して口腔管理センター・口腔内科が窓口となって口腔ケアを実施している。さらに特定の診療科（精神科神経科、心臓血管外科、消化器・移植外科）に特化した口腔ケア体制を構築している。</p> <p>・ 耳鼻科と歯科の連携 摂食・嚥下リハビリテーションを必要とする入院患者に対して、リハビリテーション部医師、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師、歯科医師、言語聴覚士が連携し、カンファレンスを継続して実施している。また、診断の際に必要な V E（嚥下内視鏡検査）の診断について、耳鼻咽喉科・頭頸部外科と協力して実施している。</p> <p>・ 形成外科と矯正歯科の連携 口蓋裂患者及び顎変形症患者のチーム診療を行うため、カンファレンスを定期的 to 実施し、口</p>	

蓋裂患者、顎変形症患者の、口腔外科及び矯正歯科と形成外科・美容外科間の診療ネットワークを構築している。